

徳島県立博物館年報

第11号 (平成13年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 11 (for the fiscal year of 2001)



目 次

I 展覧事業

1. 常設展……………2
2. 企画展……………3
3. 特別陳列……………8
4. 常設展の更新に向けての取り組み……………10
5. 展示関係出版物……………10
6. その他の展示……………10

II 調査研究事業

1. 課題調査……………12
2. 分野別（個別）調査研究……………14
3. 文部科学省科学研究費補助金による研究
……………16
4. 他機関との共同研究……………17
5. 研究成果の公表……………17
6. 研究会・学会等の開催……………19

III 資料収集保存事業

1. 購入資料……………20
2. 寄贈資料……………21
3. 寄託資料……………21
4. 資料の貸し出し……………22
5. 資料の交換……………22
6. 特筆すべき資料の受入と整理……………22
7. 館蔵資料数……………23
8. 資料収集委員会……………23
9. 文献資料の収集……………23
10. 資料の燻蒸……………24

IV 普及教育事業

1. 普及行事……………25
2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等
……………27

3. 博物館実習生の受け入れ……………28
4. 学校教育との連携……………28
5. 博物館の広報活動……………30
6. 博物館友の会……………31
7. 普及教育関係出版物……………32

V 管理運営

1. 組織・職員……………34
2. 予算……………35
3. 博物館協議会……………35
4. 各種委員・非常勤講師等の受諾……………36
5. コンピュータシステム……………36
6. 博物館ネットワーク……………37
7. 視察等博物館関係来訪者……………39

VI 観覧者統計……………40

VII 施設の概要

1. 沿革……………43
2. 施設の概要……………43
3. 博物館各室面積……………45

VIII 例規……………47

I 展 覧 事 業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりにについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。しかし、開館10周年が過ぎ、常設展の更新（リニューアル）をどう図っていくかが大きな課題となっている。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成13年度は次の展示を行った。

●慈光寺墓地出土品

1月30日（火）～4月22日（日）（前年度からの継続）
蜂須賀家と徳島藩士の墓から出土した近世陶磁や玩具などを紹介した。

●阿波の板碑—石川コレクションの拓本を中心に—

1月30日（火）～4月22日（日）（前年度からの継続）
故石川重平氏寄贈資料のうち、主として鎌倉時代の板碑の拓本を展示した。

●鳴門の製塩用具

3月27日（火）～1月20日（日）（前年度からの継続）
鳴門市から寄託された製塩用具（国指定重要有形民俗文化財）の一部を展示した。ウォールケース内の展示は終了したが、展示室中央ステージの展示は継続中。

●徳島藩御用絵師の資料—森崎家の粉本—

1月22日（火）～3月24日（日）
館蔵近世絵画資料のうち、これまでほとんど展示する機会がなかった作品や、未公開の作品を展示した。

●戦前期徳島の映画館チラシ

3月26日（火）～
平成12年度に購入した大正～昭和戦前期の映画館チラシの一部を展示した。

●おまけになった動物たち

3月26日（火）～
お菓子のおまけのうち、動物をモチーフにした精巧なおまけ192種と、それらに関連した剥製、標本、歴史資料などをあわせて展示した。

2. 企画展

平成13年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「日本人ペルー移住100周年記念 クントウル・ワシ神殿の発掘—アンデス最古の黄金芸術—」

クントウル・ワシ遺跡は、ペルー北部の標高2,300mの山上にある神殿遺跡である。古代アンデス文明「形成期」とよばれる時期（紀元前2,500年～紀元前50年）に属する遺跡で、東京大学古代アンデス文明調査隊が1988年以来10年間にわたって発掘調査を行い、数々の成果をあげてきた遺跡である。中でも、紀元前800年頃のものとして推定されるジャガーや鳥、人面などをモチーフにした多数の金製品は、現代にも通じる高い洗練度と芸術性を備えているだけでなく、学術調査で確認された金製品としてはアンデス最古のもので、学術資料としても極めて価値の高いものである。

この展覧会は、これらの貴重な出土品を集めて1999年に日本人ペルー移住100周年を記念してペルー国立博物館で開催された展覧会を、2000～2001年に日本の4会場（東京・岡崎・大阪・徳島）で巡回したものである。古代アンデス文明の最初の息吹を感じさせる金製品を含む優れた工芸品の数々は、多くの人の関心をよんだ。

- 主催 徳島県立博物館・日本経済新聞社
- 企画協力 東京大学古代アンデス文明調査団
- 後援 外務省・文化庁・ペルー大使館
- 協賛 日本興亜損害保険
- 協力 全日空・LAN CHILE（ランチリ航空）
- 期間 平成13年4月6日（金）～5月6日（日）
- 会場 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室
- 展示構成

①黄金製品の発見

「十四人面金冠」の墓出土品

日本人ペルー移住100周年記念
クントウル・ワシ神殿の発掘
 —アンデス最古の黄金芸術—
 The Treasures of the Kuntur Wasi Temple

2001年4月6日（金）～5月6日（日）

●開館時間＝午前9時30分～午後5時
 ●休館日＝月曜日（4月30日は開館）、5月4日（火）
 ●観覧料＝一般 400円（320円）
 高校・大学生 200円（160円）
 小・中学生 100円（80円）
 （ ）内42歳以上の団体料金

●記念講演会
 日時＝4月15日（日）午後1時30分～3時
 講師＝大貫良夫氏
 （東京大学名誉教授・野村民族博物館リトルワールド館長）
 演題＝「アンデスの黄金—クントウル・ワシ神殿の発掘—」
 会場＝文化の森イベントホール
 定員＝50名（先着順） 聴講無料

●企画展期間
 日時＝4月22日（日）、29日（日）の2日 両日とも午後2時～3時
 会場＝金剛屋会場（入場には企画展観覧券が必要）

文化の森総合公園
 徳島県立博物館 〒770-8072 徳島市八万町内町 TEL 089-668-3636
<http://www.museum.comet.go.jp>

主催 第一徳島県立博物館/日本経済新聞社
 企画協力 東京大学古代アンデス文明調査団
 後援 外務省/文化庁/ペルー大使館
 協賛 第一日本興亜損害保険(2001年4月分全国に100万店)
 協力 全日空/LAN CHILE(ランチリ航空)

「五面ジャガー金冠」の墓出土品

「金製耳飾り」の墓出土品

「玉飾り」の墓出土品

「犠牲」の墓出土品

②クントウル・ワシ神殿の変遷と編年

石彫・石像

イドロ期、クントウル・ワシ期、コパ期、ソテラ期
 の土器

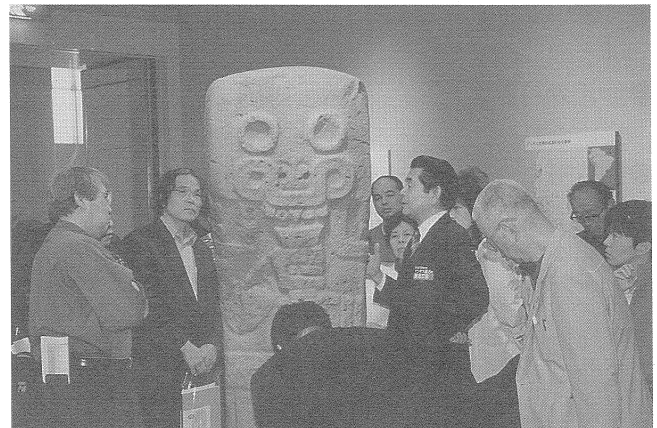
土製品・骨製品

③新たな黄金墓の発見

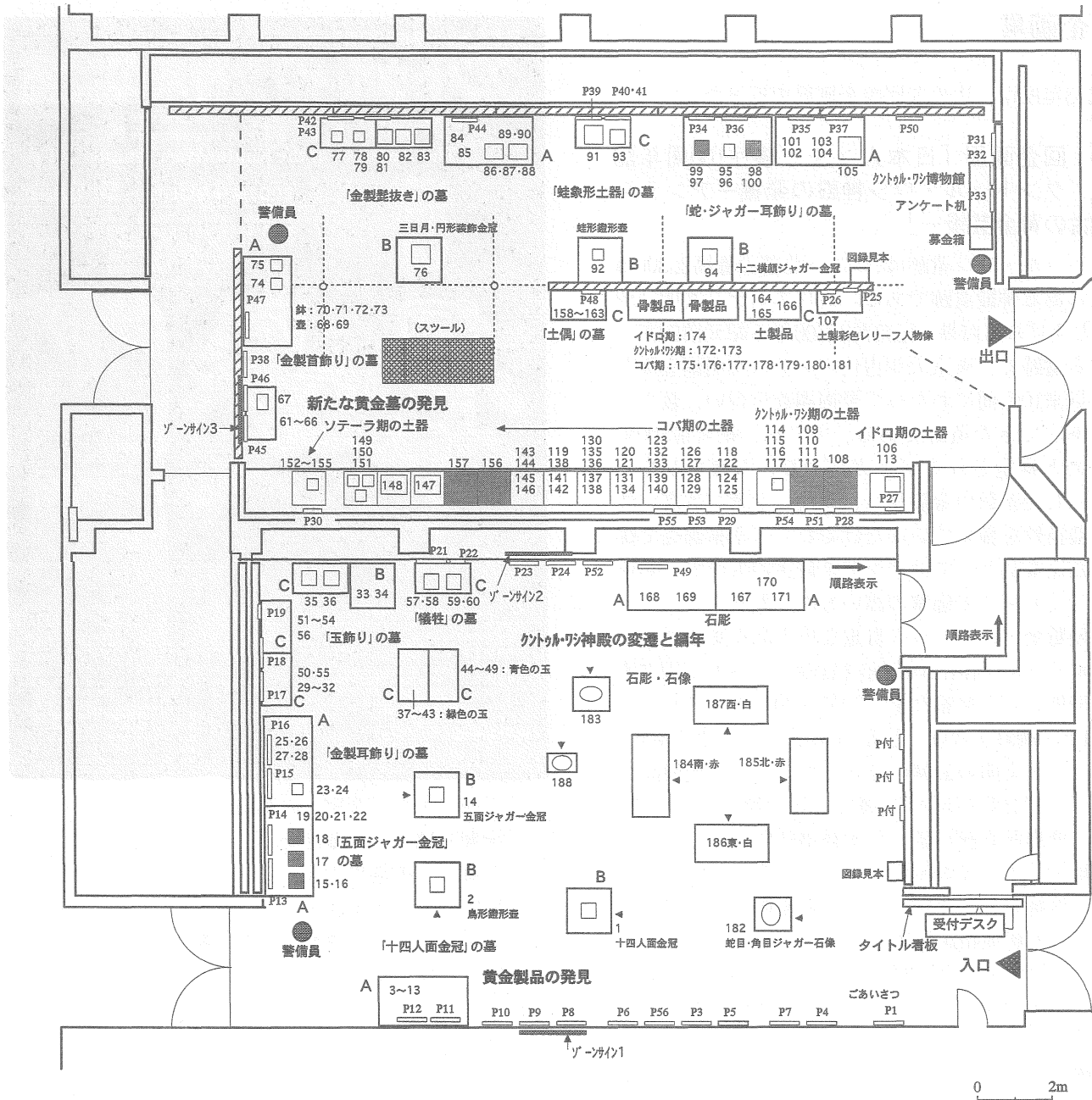
「金製首飾り」の墓出土品



企画展「クントウル・ワシ神殿の発掘」の会場



企画展「クントウル・ワシ神殿の発掘」展示解説（講師は大貫良夫氏）



- 「金製髭抜き」の墓出土品
- 「蛙象形土器」の墓出土品
- 「蛇・ジャガー耳飾り」の墓出土品
- 「土偶」の墓出土品

●展示資料点数

実物資料181点・レプリカ7点、合計188点

●観覧料 一般400円／高校・大学生200円／小・中学生100円

●期間中の観覧者数 6,037人

●企画展関連行事

①記念講演会

日時：4月15日(日) 13:30~15:00

講師：大貫良夫氏(東京大学名誉教授・野外民族博物館リトルワールド館長)

演題：アンデスの黄金—クントクル・ワシ神廟の発掘—

会場：文化の森イベントホール

入場者：170人

②企画展解説

第1回：4月22日(日) 参加者50人

第2回：4月29日(日) 参加者72人

このほか、4月30日、5月2・3・4・5・6日に臨時的展示解説を行い、多数の参加者があった。

●ペルーからの関係者の来訪

徳島での展覧会を最後に展示資料をペルーへ返却することになることから、展覧会の閉幕にあたっての資料確認と梱包立会のため、ペルー国立博物館長エンリケ・ゴンサーレス氏夫妻、クントウル・ワシ博物館長

代理エルメル・サルターニャ氏の3名が来日し、5月5～9日の間、徳島に滞在した。

(2) 第2回企画展「門出のセレモニー—婚礼・葬送の習俗—」

徳島県内で行われてきた明治から近年までの婚礼・葬送の儀礼の様相について、使用されてきた道具、衣装、装飾品などの展示を通じて、人の一生の門出となる結婚と死がどのように考えられてきたかを紹介した。

●期間 平成13年7月17日(火)～8月26日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示内容と主な展示資料

①婚礼

・花嫁行列

提灯 (三木ガーデン歴史資料館蔵)

輿 (個人蔵)

・婚礼衣装

白無垢 (被衣・綿帽子・揚帽子) (文化学園服飾博物館蔵)

白紬地御簾檜扇模様紋繡振袖 (国立歴史民俗博物館蔵)

紅紬地御簾檜扇模様紋繡振袖 (国立歴史民俗博物館蔵)

・儀式の装飾

銚子・三ツ盃 (神山町教育委員会)

結納熨斗 (当館蔵)

・徳島に特徴的な婚礼習俗

およめさんのお菓子 (当館蔵)

②葬送

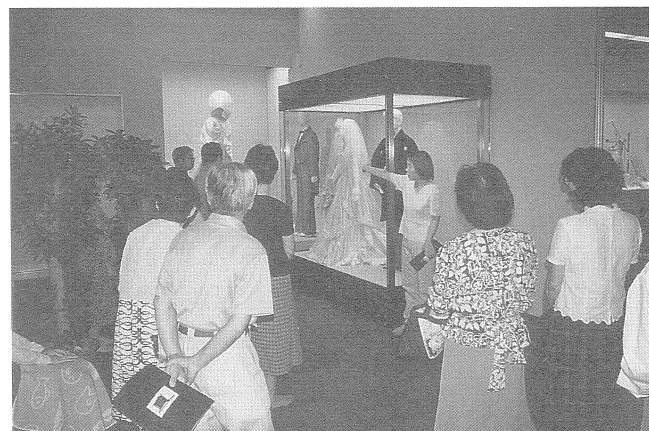
・葬列

葬列写真 (東祖谷山村) (個人蔵)

灯籠 (当館蔵)

天蓋 (当館蔵)

寝棺 (当館蔵)



企画展「門出のセレモニー」展示解説

門出のセレモニー
—婚礼・葬送の習俗—

花嫁行列 写真: 徳島県立博物館蔵 (1945-1954) (写真提供: 徳島県立博物館)



関連行事

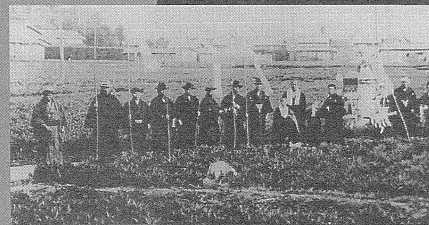
●記念講演会

日時=8月12日(日) 午後1時30分～3時
講師=近藤直也氏 (九州工業大学情報工学部教授)
演題=「白無垢・袴着の思想—徳島県下の婚礼・葬送慣習をめぐって—」
会場=文化の森イベントホール
定員=250名(先着順) 聴取無料

●企画展解説

日時=7月29日(日)、8月19日(日)の2回
両日とも午後1時30分～2時30分
会場=博物館企画展示室
(入場には企画展観覧券が必要)

野辺の洗り 写真: 徳島県立博物館蔵 (写真提供: 徳島県立博物館)



2001年
7月17日(火)
8月26日(日)

文化の森総合公園
徳島県立博物館
〒770-8270 徳島市八万町赤神山
Tel: 089-549-3636
http://www.museum.comet.go.jp/

●開館時間=午前9時30分～午後5時
●休館日=月曜日
●観覧料= 一般 200円 (160円)
高校・大学生 100円 (80円)
小・中学生 50円 (40円)
() 7歳以下23歳以上の観覧料

・葬列の衣装と死装束

経帷子 (慈光寺蔵)

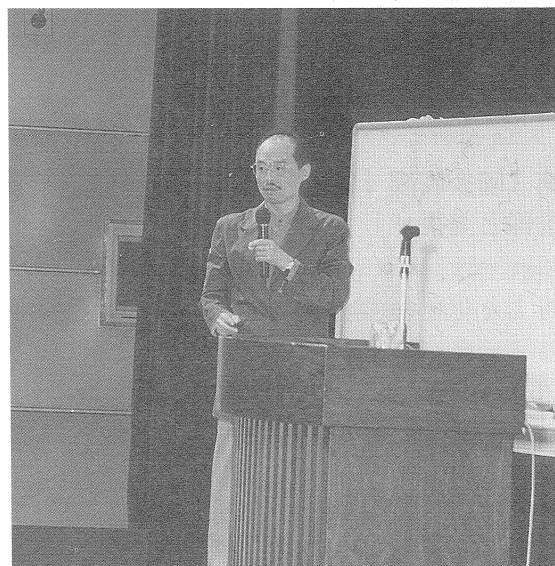
・儀式の装飾

枕飯模型 (当館蔵)

六地藏 (当館蔵)

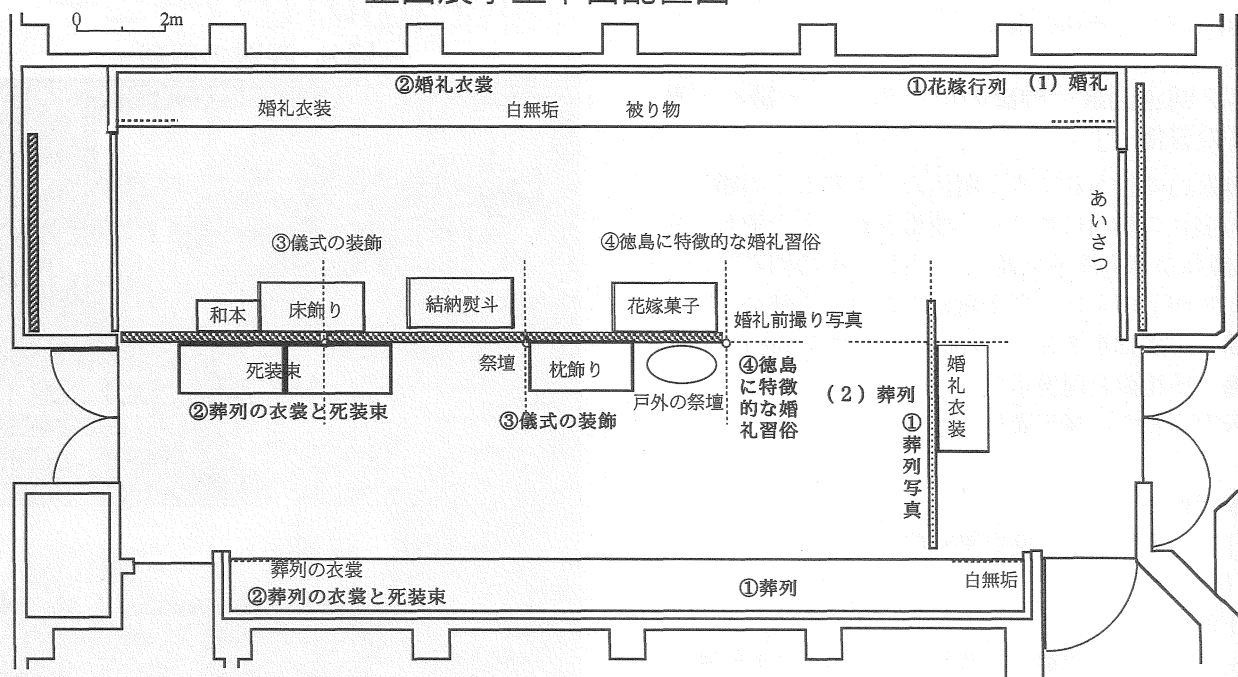
・徳島に特徴的な葬送習俗

巳正月分布図 (当館蔵)



企画展「門出のセレモニー」記念講演会 (講師は近藤直也氏)

企画展示室平面配置図



●展示資料点数

実物資料62点・写真24点、模型4点、合計90点

●観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●期間中の観覧者数 1,818人

●企画展関連行事

①記念講演会

日時：8月12日(日) 13:30~15:00

講師：近藤直也氏(九州工業大学情報工学部教授)

演題：白無垢・綿帽子の思想—徳島県下の婚礼・葬送儀礼をめぐって—

会場：文化の森イベントホール

入場者：63人

②企画展解説

第1回：7月29日(日) 参加者30人

第2回：8月19日(日) 参加者15人

(3) 第3回企画展「国立博物館・美術館巡回展—信仰と美術—」

文化庁では、平成6年度から国立博物館・美術館が所蔵する文化財や美術作品を紹介する「国立博物館・美術館巡回展」を開催してきた。この巡回展は、平成13年度から独立行政法人国立博物館・美術館に引き継がれ、今年度は徳島県と和歌山県との2会場で実施されることとなった。

本展では、奈良国立博物館・国立国際美術館・東京国立博物館・京都国立博物館・東京国立近代美術館・京都国立近代美術館の所蔵品の中から、原始・古代か

ら現代に至る間に、日本人が信仰に触発されて生み出してきたさまざまな考古遺物・仏像・仏画をはじめ、信仰に関する近・現代の優れた美術作品を紹介した。国宝2件、重要文化財17件を含む68件、162点を展示した。

併せて、徳島県に関係した資料として、小松島市田浦町前山遺跡出土の盾持男子像埴輪も展示した。

●主催 奈良国立博物館・国立国際美術館・徳島県教育委員会・徳島県立博物館

●期間 平成14年2月19日(火)~3月21日(木)

●会場 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

●展示の構成

①古代の信仰と美術

・日本美術の始まり

土偶(山形・杉沢遺跡出土)縄文時代 奈良国立博物館

埴輪盾持男子像(徳島・前山遺跡出土)古墳時代 京都国立博物館

埴輪巫女(群馬・上芝古墳出土)古墳時代 東京国立博物館

・寺院の造営と仏教美術の遺品

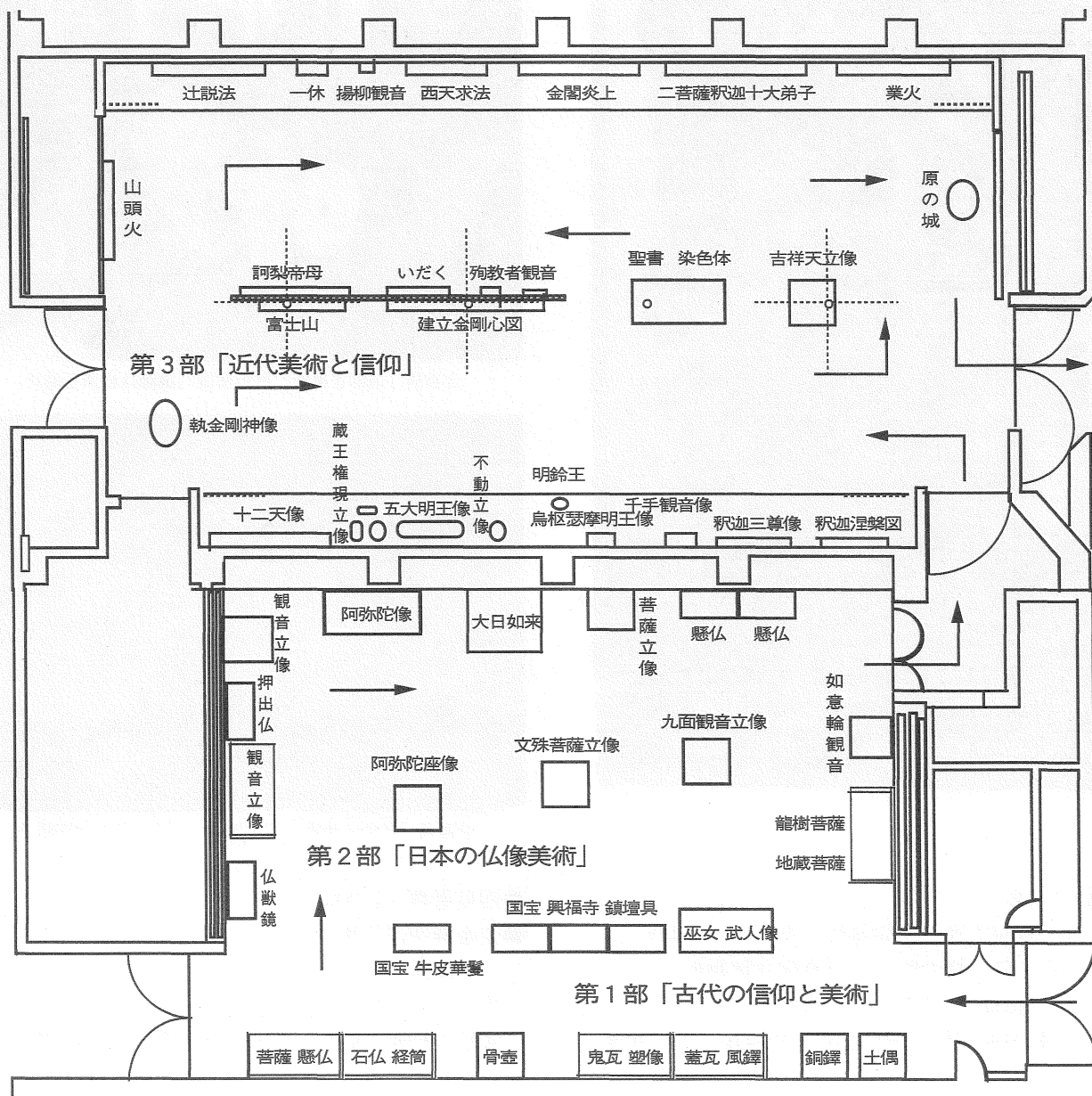
国宝 興福寺金堂鎮壇具 奈良時代 東京国立博物館

国宝 牛皮華鬘 平安時代 奈良国立博物館

鬼瓦(伝奈良・薬師寺出土)奈良時代 奈良国立博物館

・山岳信仰と経塚の遺宝

金銅菩薩半跏像(和歌山・那智経塚出土)白鳳時代



東京国立博物館

重文 石製弥勒如来坐像 (長崎・鉢形嶺経塚出土)

平安時代 奈良国立博物館

重文 銅経筒・滑石外筒 (伝福岡県出土) 平安時代
奈良国立博物館

②日本の仏像美術

・初期金銅仏の世界

重文 画文帯四仏四獣鏡 古墳時代 京都国立博物館

観音菩薩立像 (香川・伊舎那院伝来) 白鳳時代 奈良国立博物館

・如来像の世界

重文 釈迦涅槃図 平安時代 東京国立博物館

重文 薬師如来坐像 奈良時代 奈良国立博物館

重文 阿弥陀三尊像 (善光寺式) 鎌倉時代 東京国立博物館

重文 大日如来坐像 平安時代 奈良国立博物館

・菩薩像の世界

重文 菩薩立像 鎌倉時代 東京国立博物館

重文 千手観音像 鎌倉時代 奈良国立博物館

文殊菩薩立像 鎌倉時代 東京国立博物館

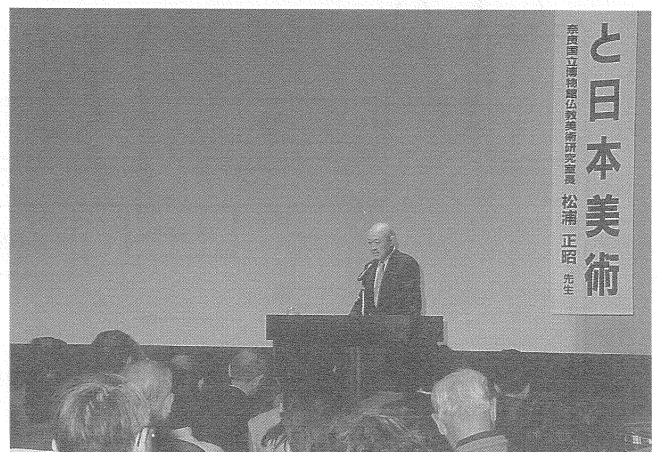
・明王像の世界

重文 不動明王八大童子像 鎌倉時代 奈良国立博物館

重文 烏枢瑟摩明王像 鎌倉時代 京都国立博物館



企画展「信仰と美術」展示解説（講師は松浦正昭氏）



企画展「信仰と美術」記念講演会（講師は松浦正昭氏）

・天部像の世界

重文 蔵王権現立像 平安時代 奈良国立博物館

重文 十二天像 鎌倉時代 奈良国立博物館

③近代美術と信仰

辻説法（野田九浦作）明治40年 東京国立近代美術館

訶梨帝母（堂本印象作）大正11年 京都国立博物館

二菩薩釈迦十大弟子（棟方志功作）昭和15年 東京国立博物館

金閣炎上（川端龍子作）昭和25年 東京国立博物館

建立金剛心図（平山郁夫作）昭和38年 東京国立博物館

富士山（徳岡神泉作）昭和40年 東京国立博物館

原の城（舟越保武作）昭和46年 国立国際美術館

いだく（高山辰雄作）昭和52年 東京国立博物館

うしろ姿のしぐれてゆくか 山頭火（池田遙邨作）

昭和52年 京都国立博物館

楊柳観音（村上華岳作）制作年不明 東京国立博物館

●観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●観覧者数 4,304人

●企画展関連行事

①記念講演会

日時：3月10日（日） 13：30～15：00

講師：松浦正昭氏（奈良国立博物館仏教美術研究室長）

演題：仏像と日本美術

会場：文化の森イベントホール

入場者：226人

②企画展解説

第1回：2月24日（日） 参加者38人

第2回：3月2日（土） 参加者55人

3. 特別陳列

(1) 勝瑞城館跡国史跡指定記念「勝瑞時代—細川・三好氏と阿波—」

南北朝～戦国時代の阿波国守護細川氏は、足利将軍家の一門であり、管領細川家を本宗家とする有力氏族であった。また、そのもとで成長した三好氏は幕府の

勝瑞城館跡国史跡指定記念
特別陳列 **勝瑞時代**
— 細川・三好氏と阿波 —
2001.10.20(土)→11.25(日) 月曜休館
入場無料
開館時間 9:30~17:00 会場 徳島県立博物館企画展示室



主催 徳島県教育委員会 勝瑞城館跡発掘調査担当者による解説
藍住町教育委員会 日 時 11月3日(土) 13:30~15:00
特別協力 徳島県立徳島城博物館 11月18日(日) 13:30~15:00
会場 特別陳列会場
講師 重見高博氏(藍住町教育委員会学芸員)

文化の森組合
徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向香山 TEL 089-668-3636 http://www.museum.comet.go.jp/

実権を握るほどの勢力を持った。

細川氏は、支配のセンターである守護所を、15世紀頃から現在の藍住町勝瑞に置き、また、三好氏も同所を拠点とした。そして勝瑞は、土佐の長宗我部氏が阿波を制圧するまで、阿波の政治・経済・文化の中心と

して栄えたのである。

近年、発掘調査が進み、守護町勝瑞遺跡の実相が浮かび上がってきた。その遺跡としての価値は高く評価され、勝瑞城跡と、三好氏の居館跡と見られる勝瑞館跡が、併せて「勝瑞城館跡」として国史跡に指定されるに至った。

この展示は、史跡勝瑞城館跡の歴史的意義を周知する機会とすべく開催したものである。勝瑞からの出土資料を中心に、考古資料や文献史料等によって、細川・三好氏の時代を概観できるように構成した。

なお、この特別陳列については、徳島市立徳島城博物館特別展「勝瑞時代—三好長慶 天下を制す—」とのジョイント企画として開催した。平成12年度から13年度にかけて、展示を行う両館、発掘調査を行った徳島県教育委員会文化財課・藍住町教育委員会の各担当者との間で協議・調整を重ねて準備を進めた。広報等もタイアップして行った。

●主催 徳島県教育委員会・藍住町教育委員会

●特別協力 徳島市立徳島城博物館

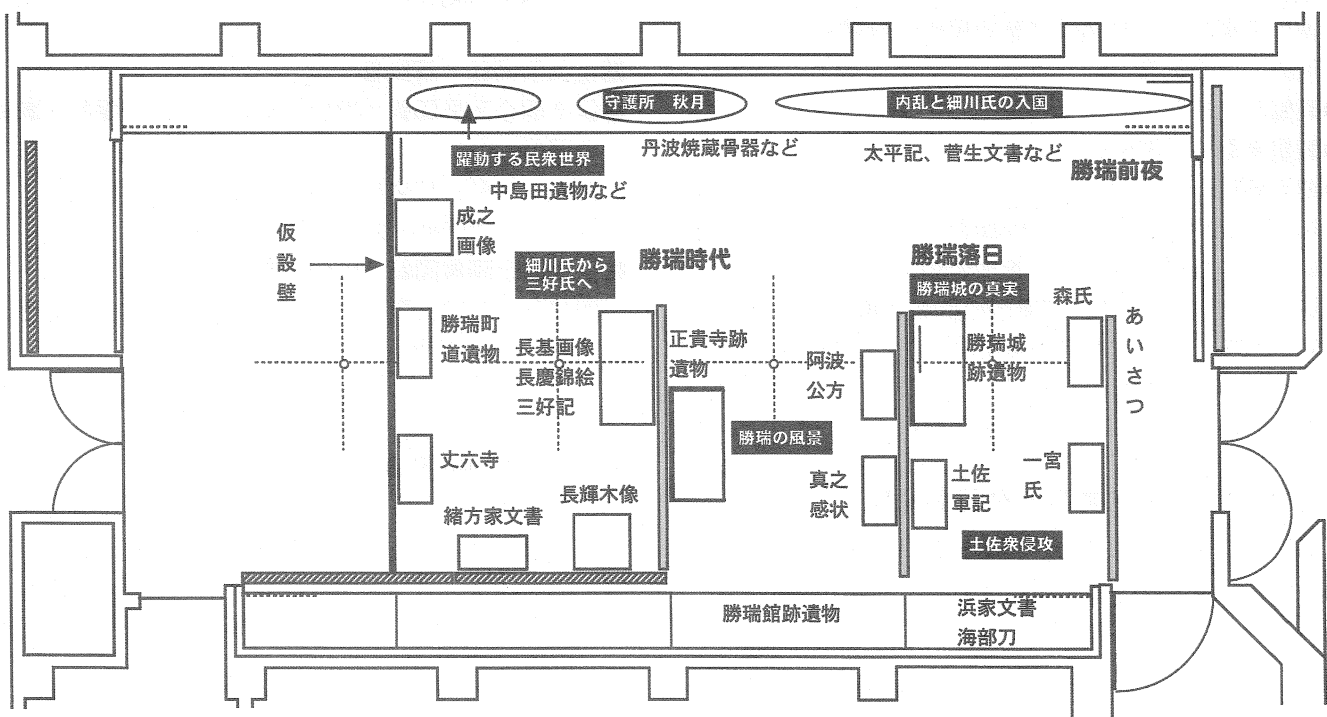
●期間 平成13年10月20日(火)~11月25日(日)

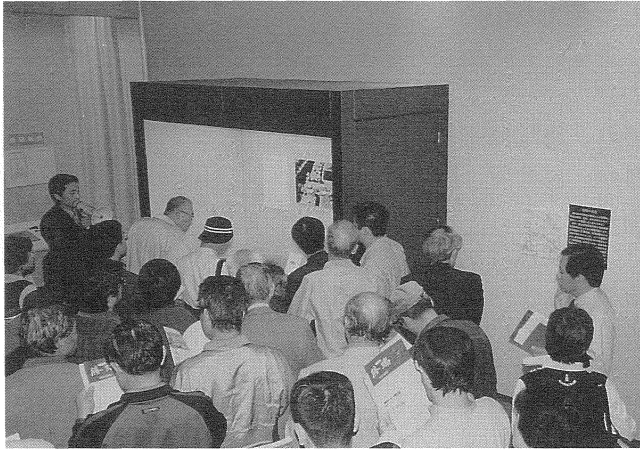
●会場 博物館企画展示室

●展示構成と主な展示資料

①勝瑞前夜

- ・内乱と細川氏の入国
太平記(当館蔵)
細川頼之像複製(当館蔵)
菅生家文書(内田英明蔵)
- ・守護所 秋月





特別陳列「勝瑞時代」展示解説

阿波安国寺跡出土品（土成町教育委員会蔵）

- ・躍動する民衆世界—支配の基底—
中島田遺跡出土品（徳島県立埋蔵文化財総合センター蔵）

②勝瑞時代

- ・細川氏から三好氏へ
細川成之像模本（当館蔵）
守護町勝瑞遺跡（町道）出土品（藍住町教育委員会蔵）
伝三好長基像（三好 豊蔵）
- ・勝瑞の風景
勝瑞館跡出土品（藍住町教育委員会蔵）
正貴寺跡出土品（藍住町教育委員会蔵）

③勝瑞落日

- ・勝瑞城の真実
勝瑞城跡出土品（藍住町教育委員会蔵）
- ・土佐衆侵攻
浜家旧蔵文書（高知県立歴史民俗資料館蔵）
海部刀（当館蔵）

●観覧料 無料

●観覧者数 5,605人

●展示解説

第1回：11月3日（土）参加者100人

第2回：11月18日（日）参加者40人

第1回は、当館学芸員が展示の概要を解説したほか、重見高博氏（藍住町教育委員会学芸員）に勝瑞の発掘調査について紹介していただいた。第2回は、重見氏が公務のため来館できず、当館学芸員だけで行った。

(2) 2001年度文化の森同和問題啓発展

文化の森5館と徳島県教育委員会（生涯学習課）との共催で、年2回の同和問題啓発展（同和問題啓発標語ポスター入選作品展と識字学級生の作品展）を行った。

●主催 文化の森5館・徳島県教育委員会

●期間

(1) 2001年度文化の森同和問題啓発ポスター・資料展

平成13年8月4日（土）～12日（日）

(2) 2001年度文化の森同和問題啓発展

平成13年12月4日（火）～9日（日）

●会場 近代美術館ギャラリー・21世紀館多目的活動室・ミニシアター（ビデオ上映）

●入場者数 2,137人

4. 常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から館内での検討を行ってきた（年報7号参照）。そして、開館15周年目に当たる17年度にリニューアル・オープンする計画で、事業規模を縮小した基本案見直しを行い、予算積算などを行ったが、厳しい財政状況等もあって、今回も事業化は認められなかった。

今後、できるだけ早い時期での常設展更新が実現するよう、その方途を探っている。

また、最近展示のリニューアルを行った先進館に対する調査も継続してきており、13年度には次の調査を行った。

福島県立博物館：展示更新の進捗状況の調査

5. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第2回企画展図録「門出のセレモニー—婚礼・葬送の習俗—」

2001年7月17日発行、A4判44ページ（17カラーページ）、700部+友の会増刷分300部

●第3回企画展図録「信仰と美術」

2002年1月12日発行、A4判161ページ（カラー）、500部+友の会増刷分100部

6. その他の展示

その他の展示として、博物館総合展示室入口受付ロビー付近において、6月10日よりミニミニ展示「おまけになった動物たち・おまけになった恐竜とそのなかま」を行った。

お菓子などのおまけのうち、動物や古代生物をモ

チーフにしたものを標本箱に入れて展示した。当初は48種類から展示を始め、順次追加した。この展示は、平成14年3月24日まで行い、その後、部門展示「おまけになった動物たち」へと移行したが、3月24日時点での展示資料数は168種であった。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりを持つ資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じては館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む14名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成13年度は、次の3つの課題調査を行った。

(1) 前山古墳群の調査

前山古墳群は名西郡石井町の標高160mほどの尾根上に立地し、前方後円墳2基からなる。当館では、平成7年度に前山1号墳・2号墳の測量調査を行い、平成10・11年度には前山1号墳の発掘調査を行い、墳丘の規模および墳形の確認を行った。

13年度は、これらの成果を踏まえて、前山1号墳の埋葬主体部である竪穴式石槨と墓壇の形態確認を行った。また、後円部東南側の墳形と後円部のつくり方方の確認もあわせて行った。

●調査メンバー

博物館職員：天羽利夫・高島芳弘・魚島純一（考古）、原多賀子（文化推進員）

館外調査者：北條芳隆（徳島大学）、三宅良明（徳島市教育委員会）、奈賀哲人（石井町教育委員会）

館外協力者：中村豊・谷川真基・岸田典子・金沢義暁・松浦 稔（徳島大学）、福永素久（別府大学）、栗林誠治・大北 和美・田川 憲（徳島県埋蔵文化財センター）、多田精介、原田史郎

●調査日程と概要

8月3日：荷物運び、草集め、土囊上げ

8月4日～9月13日：主体部掘り下げ・平面図作成
8月9日～9月13日：後円部墳丘東南側掘り下げ・平面図作成

8月22日～9月24日：後円部墳丘断ち割・セクション図作成

8月29日～9月25日：くびれ部掘り下げ、平面図・立面図作成

9月16日～9月30日：主体部立面図作成

9月29日～10月3日：埋め戻し、後片付け

●調査の成果

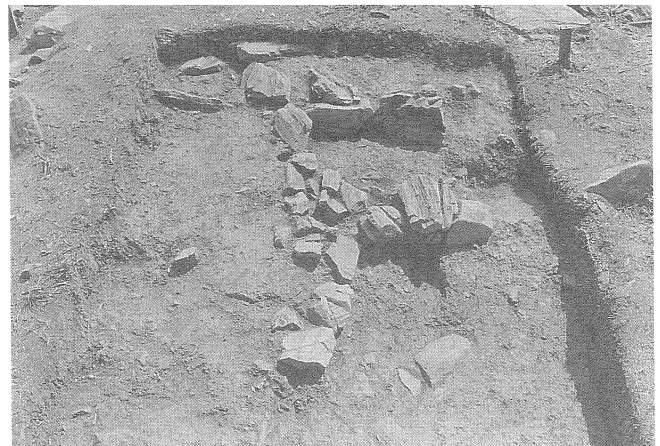
平成13年度で前山1号墳の発掘調査が終了したので前山1号墳の全体的なまとめをしておく。

①墳長及び墳形

全長約18mの前方後円墳で、古墳主軸はほぼ東西(N-76°-W)に向き、前方部は細長くバチ形に開いて西側に取り付く。前方部長約9m、後円部の直径9.7mで、後円部の直径と前方部の長さの比率がほぼ1:1となる。前山古墳群の2基も含めて県内に14基の前方後円墳が確認されているが、その中でも最も小さいものである。

前方部は、くびれ部から前方部中央へとかけて、幅が狭くなり、高さも低くなっている。中央部が最も狭く2.2mで、裾からの比高は、最も低いところで30cm足らずである。中央付近から、端に向かってバチ形に開いており、全体的に段築は認められない。

前方部の端は、ほぼ垂直に葺き石が葺かれている。基底部は平積みに上半は小口積みされている。高さ50cmで中央付近の2倍近くになっている。



前山1号墳前方部のくびれ部南側

中央付近の裾は小ぶりの石を平積みしている。くびれ部の北側では、裾の部分は地山を削りだしており、その上に薄く土を盛っている。南側の裾には後円部から続いてきれいに石が並べられている。

②後円部

後円部の直径は9.7mで、上面の直径は約6mである。墳丘東南側の墳丘全体に緑色片岩の割石が積まれており、石のすき間を埋めるようにところどころに風化した小さな片岩礫を含む土が盛られている。

段築は認められないが、後円部南側にはテラスがつくられており、テラスの立ち上がりは傾斜を持ち小口積みされている。上半では横方向に平積みされている。ほかの部分ではテラスの残りが悪い。

③埋葬主体部

埋葬主体部は後円部のやや西に偏って設けられ、古墳の軸に直交して南北(N-2°-W)向きに作られている。墓壇の区画と考えられる部分に、おおぶりの板状の緑色片岩がやや外に傾いて並べられている。二重になっているところもあり、上端の内法で南北約4.4m、東西2.5mである。

床には赤みの強い粘土を敷いて、その上に木棺を据え、東西両側に板状の緑色片岩を並べ石槨としている。石槨は北側が盗掘によって大きく壊されているが、長さ3.1m、幅は北側で1m、南側で0.8m程である。

木棺の側の立石と墓壇の壁の板状の石の間を埋めるように石が積まれている。東壁北側と北壁の下部では緑色片岩が小口積みされているが、上半では平積み、あるいは斜め積みされている。石室南壁は緑色片岩の一枚板を横に立てている。この石は外側(南側)に傾斜している。

頭位は北方向である。なお、石槨内には副葬品は全く残されていなかった。

④出土土器

墳丘の流出土の掘り下げの過程で、後円部東寄り、



前山1号墳全景(東より)

後円部東南裾、くびれ部、前方部端から壺などの土師器破片が出土した。壺には3種類ありすべて複合口縁である。一つは頸部の折り返しがほぼ直角に近く、立ち上がりもほぼ垂直なもの。二つは頸部が外反しながら立ち上がり、口縁部は頸部と角度をもって立ち上がるが、外傾するもの。三つは口縁部の上方へのつまみだしが非常に弱く、ほぼ垂直に立ち上がるものである。

壺形土器や壺形埴輪が墳丘や裾に置かれている例は、県内では、前山古墳群と同じ気延山山塊にある宮谷古墳、松熊神社古墳(仮称)、清成古墳、曾我氏神社2号墳と、吉野川北岸下流域の蓮華谷古墳群(Ⅱ)2号墳、萩原墳墓群1号墓と小松島市の前山古墳で知られている。

ただし、複合口縁のものは萩原墳墓群1号墓と宮谷古墳だけである。

⑤時期

墳形から見て古い古墳に位置づけられそうである。また、墳丘の裾などから出土した壺のうち、頸部の折り返しや口縁の立ち上がりの垂直なものは宮谷古墳の壺と似ている。ただし、前山1号墳の壺には、口縁部に偽凹線が施されておらず、宮谷古墳の壺と同時期か若干新しい時期のものと考えられる。

これらの土器は古墳の埋葬終了後、墳丘の上に置かれて行われたまつりにかかわるものと考えられるので、この古墳の築造時期は宮谷古墳より若干新しく、3世紀末から4世紀初頭頃と推定される。

(2) 伊島の自然とくらし

伊島は、県内でも数少ない人が住む離島であり、古い漁村の形態を今も残している。また、ササユリの生息地としてよく知られている。しかし、ケブカアキノタムラソウといったこの島にしかない貴重な植物についてはあまり知られていない。特に、島の中央部の湿地は古くは水田として利用されていたが、現在では放棄されて海浜性の湿地に変わり、絶滅危惧動植物の生息地となっている。

伊島とその周辺の島々の自然や歴史、民俗に関する最近の調査は行われておらず、古い記録しかない。そこで博物館では2年計画で様々な分野での総合調査を行うことにした。

●調査メンバー

博物館学芸員：小川 誠(植物：調査主担者)、大原賢二(動物)、茨木 靖(植物)、中尾賢一(地学)、高島芳弘・魚島純一(考古)、長谷川賢二(歴史)、庄武憲子(民俗)

館外調査員：田淵武樹(徳島県 RDB 植物調査員)、吉田一夫(市場町職員)

●調査の概要および結果

13年度は、本調査の2年目として、次のような分担で伊島の自然とくらしを明らかにすることを目標に調査を行った。13年度の調査では12年度の調査でできなかった点を掘り下げ、特に植物では、島の草地に貴重な植物が見いだされるなどの成果があった。また、アサギマダラの移動調査では、伊島でマーク・放蝶された個体が高知県室戸岬で再確認され、伊島もこのチョウの移動ルートの一つであることが確認された。

小川 誠・茨木 靖・田渕武樹：伊島の植物相、特にケブカアキノタムラソウについて

大原賢二・吉田一夫：伊島の湿地および水系に生息するトンボ類の幼虫・成虫調査

大原賢二：アサギマダラの移動調査

中尾賢一：伊島の地質と貝類について

高島芳弘・魚島純一：伊島および舞子島の遺跡の所在調査

長谷川賢二：伊島の歴史的な位置づけについて（空也伝承と埋経を中心に）

庄武憲子：伊島の民俗風習について

(3) 徳島県の半翅類調査

徳島県の昆虫相解明のために、外部の研究者にも参加してもらいながら、平成12年度からの2年計画でスタートさせた。大型の半翅類であるセミ科さえも分布状況の把握は十分とはいえない。また水生のグループ（異翅目の一部）は、タガメやコオイムシなど全国的に個体数の減少している種も多く含まれ、それらの保護のためにも現時点での調査が急がれるグループである。

2年目となる13年度は8月にセミ類（特にエゾゼミ類）の調査を計画したが、館外調査者が急用のために調査に参加できなかった。そのためにセミ類の調査は大原が単独で行い、池田町などでエゾゼミが多産する場所の確認だけに留まった。10月～14年1月には水生半翅類を中心とした調査を実施した。

●調査メンバー

博物館学芸員：大原賢二（動物）

館外調査者：林 正美（埼玉大学教育学部）

●13年度調査の成果

①徳島県のエゾゼミ

7月27日、三好郡池田町雲辺寺山で大原がエゾゼミ属の調査を行った。多くの個体が鳴いていたが、スギが高すぎて採集はできず、脱け殻を1個採集したのみに留まったが、雲辺寺周辺にはかなりのエゾゼミが生息していることは確認できた。

②徳島県の水生半翅類

10月17～20日、11月22～24日、14年1月24～26日の3回、林氏と共に調査を行った。名東郡佐那河内村大川原高原の池、徳島市内、麻植郡川島町と阿波郡市場町にまたがる善入寺島、美馬郡脇町および海部郡由岐町などの淡水湿地、ため池、海岸を中心に調査を行った。

・善入寺島は吉野川の中流域にある流域最大の中洲で、中に2つの池がある。一つは市場町、一方は川島町に位置する。市場町側の池は、細長い形状をしており、古くは吉野川からの水を利用するために水路とされていたものが砂の堆積で閉ざされてしまったものと思われる。周囲にはヤナギの大木が相当生えており、池の西側はかなり暗い。ここでは全国的にも貴重なイトアメンボがかなり見られ、コオイムシの個体数も多い。・脇町のため池は、吉野川北岸用水が作られてからその価値がほとんどなくなりつつある。周辺の聞き取り調査では、池の所有者が次々に埋め立てているということであった。しかしながらイトアメンボやヒメミズカマキリ、コオイムシ、ヒメマルミズムシなど貴重な種が多く発見され、ため池の重要性が再確認された。あわせて、このような身近な環境の保全についても、その対策を急がねばならないと痛感した。

2. 分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

②日本産ハナアブ科図鑑作成協力

双翅目談話会が作成するハナアブ科図鑑の作成協力を行った。

③アサギマダラの移動調査

アサギマダラの移動について、マーキング等の調査を継続して行った。協力者も増え、調査もかなり軌道に乗りつつある。由岐町明神山が移動ルートの重要な地点であることがより明確になった。福島県、長野県、石川県輪島市などからの移動も確認され、四国への渡りのルートとして紀伊半島を横切って飛来するコースがあることが示唆されたほか、徳島県から高知県室戸岬だけでなく、愛媛県西部や鹿児島県薩摩半島南端の開聞岳山麓へ移動も確認されるなど、本格的に調査ができた年であった。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①県内の淡水魚類相調査

県下の淡水魚類相調査の一環として、県下各地で調査を行った。

②勝浦川産魚類の生息と物理環境との関係の解明

調査データ（1999～2000年）に基づき、魚類の出現／非出現を予測するためのロジスティック回帰モデルの構築を試みた。

③松茂町中喜来地区の魚類調査

灌漑水路における魚類の生息調査を行った。徳島大学工学部建設工学科との共同調査。

田辺 力（動物・無脊椎動物）

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を行った。

②ヤスデ類の進化生物学および分類学的研究

ババヤスデ属における形態の進化要因についての研究を進めた。

③ヤスデ類の毒成分の分析

ババヤスデ科2種について毒成分を分析し、結果を報告した（大村 尚、桑原保正氏と共同）。

④インドネシア産ヤスデ類相の調査

文部科学省科学研究費による海外学術調査の研究協力者として、ジャワ島、スラウェシ島、ロンボク島におけるヤスデ類相について報告した。

小川 誠（植物）

①佐那河内村の植物相調査

平成13年度阿波学会の調査の一環として、佐那河内村の植物相調査を行った（木下 覚、木村晴夫氏らと共同）。

②博物館の情報提供におけるインターネットの利用に関する技術的研究

前年度に引き続き、環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史係博物館ネットワーク推進事業の一環として、博物館のホームページの全文検索および他博物館との共通検索システムを構築した。

③ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、島根県での分布調査を行った。

④県内の絶滅危惧種の調査

徳島県版レッドデータブックを作成し、さらに普及版の編纂に携わった。13年度はタコノアシやフジバカマなどの絶滅危惧種が見つかった。

茨木 靖（植物）

①県産植物相の調査

名西郡神山町周辺を中心に、植物相の調査を行った。

②ススキ属の比較研究

国内外の博物館、研究機関より世界各地のススキ属の標本を借用し、その異同、分布などについての調査を行った。

両角芳郎（地学）

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するノストセラス科アンモナイトの分類学的検討を行った。また、かつて研究して記載・図示した個人標本で、その後に公的博物館で保管されている標本について調べ、研究報告に投稿した。

②勝浦川流域下部白亜系産化石に関する研究

羽ノ浦層から産出した頭足類の分類学的検討を行った。

中尾賢一（地学）

①沖積平野の堆積学的・古生物学的研究

高知市中央部と縁辺部の沖積層から産出した貝化石を分析した。一部の資料については年代測定を行い、古環境の変遷を調べた（三本健二氏と共同）。

②第二瀬戸内累層群の堆積環境と貝化石相の調査

長崎県で化石の産状と堆積相の観察を行い、堆積環境と貝化石の関連を調べた。

③佐那河内村の緑色岩調査

平成13年度阿波学会の調査の一環として、佐那河内村の緑色岩の調査を行った（元山茂樹氏、石田啓祐氏らと共同）。

天羽利夫（考古）

①薩摩駅の所在地に関する調査

平城宮出土木簡に記載されている「薩摩駅」の所在調査を継続した。場所については、県南部の海岸沿いが想定されるものの、この地名は現存しておらずまったく不明である。昨年度は、「海部町史」に記載の「芝北山薬師如来御由来記」を手がかりとして、海部町芝周辺の現地聞き取り調査を実施し、13年度も継続して聞き取り調査や文献での調査を行ったが、場所を特定するまでには至らなかった。

②徳島県考古学史について

徳島県の考古学研究の歩みを纏めるための準備作業として、文献目録の作成を進めた。これは今後も継続して行うことにしている。

高島芳弘（考古）

①縄文時代の石鏃の形態の変異に関する調査

鮎川遺跡を中心とする那賀川流域で採集した石鏃の図化を行い、基礎資料の蓄積を行った。あわせて剥片石器全体の石器石材の検討を行った。

②鳴門市亀浦遺跡出土品の検討

亀浦遺跡から採集した資料の内、主に縄文時代晩期の刻目突帯文土器と製塩土器、土錘について検討を行った。

魚島純一（保存科学・考古）

①県内出土銅鐸の調査

県内出土銅鐸の X 線透過撮影や蛍光 X 線分析などを行った。特に星河内美田銅鐸（徳島市上八万町出土）について、出土地の確認、出土状況の聞き取り調査等を行い、14年度に予定している課題調査に備えた。

②臭化メチル燻蒸に替わる燻蒸法の研究

昨年度、徳島県教育委員会若手職員海外派遣研修で指導を受けた窒素を使った簡易な燻蒸装置（バルーン）を用いた博物館資料の燻蒸について、その有効性確認のため実際に装置の試作を行った。

③外部依頼による調査、燻蒸処理等

- ・香川県埋蔵文化財調査センター、高知県埋蔵文化財センター、高松市教育委員会、大川地区広域行政振興整備事務組合などの依頼を受け、出土文化財の蛍光 X 線分析による材質調査を行った。
- ・県内教育委員会、博物館施設、図書館などの文化財保管施設からの依頼を受け、古文書、仏像などの燻蒸処理を多数実施した。

山川浩實（歴史）

①関ヶ原合戦に関する現地調査

1600年（慶長5）に行われた美濃国関ヶ原合戦における蜂須賀至鎮軍の陣地について、徳川幕府の関ヶ原合戦図などからその陣地の場所を調査したが、まだ確定するに至っていない。

②賤ヶ岳合戦に関する現地調査

1583年（天正11）に行われた近江国賤ヶ岳合戦における柴田勝家軍と羽柴秀吉軍の兵の配置や賤ヶ岳古戦場の立地条件などを調査した。併せて、蜂須賀正勝陣地を調査したが、正確な陣地の場所は把握できなかった。

③大坂の陣に関する現地調査

1614年（慶長19）とその翌年に行われた大坂の陣における徳川家康・秀忠軍の兵の配置や蜂須賀至鎮軍の陣地を調査した。

④牟岐大島の狼煙場跡等の現地調査

牟岐町教育委員会と合同で、牟岐大島の徳島藩の狼煙場跡や遠見番所をはじめ、太平洋戦争末期における旧日本海軍の本土決戦陣地を調査。うち狼煙場跡と旧日本海軍の本土決戦陣地の2カ所は場所を確定した。また遠見番所については後日、徳島大学総合科学部教授石田啓祐氏に加わっていただき、牟岐町教育委員会と合同で現地調査を実施し、跡地をほぼ確定した。

長谷川賢二（歴史）

①熊野三山奉行成立過程の研究

従来から行っている修験道史研究の一部をなす。修験道本山派中枢組織において重要な位置を占めたとする熊野三山奉行の成立について、同時代史料による再検討を進め、一応の見通しを得た。今後、史料分析の不足を補い、まとめていきたいと考えている。

②郷土史家浪花勇次郎の遺品調査

戦前から戦後に活動した郷土史家浪花勇次郎の遺品が当館に収蔵されているので、その内容を調査した。とくに、香川県大内町の水主神社外陣大般若經に関する書簡について概略をまとめた。

③博物館における部落問題展示についての検討

歴史系博物館における部落問題展示の意義、現状を検討し、これを通じて博物館がとらえる「地域」「歴史」とは何かを考察した。

④被差別部落史に関する調査

徳島県教育委員会による徳島県同和地区民俗文化史調査に参加し（徳島市域を分担）、被差別部落の生活史について調査した。

庄武憲子（民俗）

①神山町の暮らしについての調査

神山町史編纂にあたって、専門委員として神山町での山、川、里での暮らしぶりについて調査を行った。

②徳島県内の婚礼、葬送儀礼の調査

県内で行われてきた婚礼及び葬送儀礼について、各市町村での事例収集と比較を行った。

大橋俊雄（美術工芸）

①徳島藩にかかわる美術作品の調査研究

阿波の絵師、工芸職人の作品と史料について所在調査を行った。

②藤重の研究

徳島藩に抱えられた京都藤重家について、文献資料を調べた。

③飯塚桃葉の研究

飯塚桃葉の作品の比較検討を行った。

3. 文部科学省科学研究費補助金による研究

- 基盤研究(A)：アジア熱帯地域における陸産無脊椎動物の多様性創出機構の解明（平成11～13年度）
研究代表者：片倉晴雄（北海道大学大学院理学研究科教授）

当館の研究協力者：田辺 力

●基盤研究(B)一般(1)：博物館資料の保存環境としての木質空間の特質(平成11~13年度)

研究代表者：神庭信幸(東京国立博物館学芸部保存修復管理官)

当館の研究分担者：魚島純一

4. 他機関との共同研究

●(社)土木学会四国支部受託研究の共同研究：「正木ダムに係わる河川環境総合調査」(平成10~15年)

研究代表者：岡部健士(徳島大学工学部教授)

当館の共同研究員：佐藤陽一

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第12号

2002年3月31日発行、B5判56ページ、1,200部

(*は館外著者)

大原賢二：徳島県のヒラズゲンセイ。p.1-13.

大原賢二：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2001年)。p.15-29.

大原賢二：徳島市内でクロメンガタスズメを採集。p.30.

田辺武樹*・小川 誠：徳島県におけるトサシモツケの分布。p.31-34.

高島芳弘・天羽利夫・森 清治*：鳴門市亀浦遺跡の発見とその漁業関連遺物について。p.35-46.

魚島純一：博物館施設における生物被害防除の課題と展望—窒素を使った簡易な燻蒸装置の可能性。p.47-56.

(2) 博物館ニュース“Culture Club”欄記事

天羽利夫：濱田耕作と徳島。No.43, p.2-3.

魚島純一：よみがえったあの日の記憶—28年前に撮影ずみのフィルムから画像を取り出す試み—。No.44, p.2-3.

大原賢二：阿波の昆虫研究家—高橋尚孝—。No.45, p.2-3.

長谷川賢二：香川県大内町水主神社の大般若経と浪速勇次郎—徳島県史学史の一断面—。No.46, p.2-3.

(3) 当館刊行物以外への掲載

(*印は館外の研究者)

〈動物〉

大原賢二・祝 輝男* (2002.3) マエキコシボソハナアブ *Allobaccha amphithoe* の南西諸島からの記録。はなあぶ, 13:3-4.

上月康則*・佐藤陽一・村上仁士*・花住陽一*・倉田建悟*・佐良家康*・尾関朋幸* (2001.5) 以西用水路網におけるメダカの分布拡大に関する調査。平成13年度土木学会四国支部第7回技術研究発表会講演概要集, 498-499.

佐藤陽一 (2001.7) 魚博士の吉野川魚図鑑：カワムツ。四国三郎吉野川, 9.

花住陽一*・上月康則*・倉田建悟*・村上仁士*・田代優秋*・佐藤陽一 (2001.8) 用水路におけるメダカの生息環境と保全について。洗剤・環境科学研究会誌「第25回洗剤・環境科学研究会講演要旨集」, 25(1):67-68.

佐藤陽一編 (2001.9) 博物館等における差別的生物名称の使用に関するアンケート報告書。徳島県立博物館:1-16.

佐藤陽一・岡部健士*・竹林洋史* (2001.10) ロジスティック回帰モデルによる河川性魚類の出現/非出現の予測。2001年度日本魚類学会年会講演要旨:49.

佐藤陽一編 (2001.10) 汽水淡水産魚類。徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会編：徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック—。徳島県環境生活部環境政策課:109-147.

佐藤陽一 (2001.12) 魚博士の吉野川魚図鑑：カジカ。四国三郎吉野川, 10.

佐藤陽一 (2002.3) 魚博士の吉野川魚図鑑：タウナギ。四国三郎吉野川, 9.

田辺 力 (2001.5) ムカデの話。徳島新聞5月30日朝刊.

田辺 力 (2001.6) 阿部陸産貝類コレクション。遺伝, 55(6):1.

田辺 力 (2001.8) 発見の場としての分類と形の研究。タクサ, (11):8-11.

田辺 力 (2001.9) 書評：Nomenclator generum et familiarum Diplopodorum II: A list of the Genus and Family-Group Names in the Class Diplopoda from 1958 through 1999. Acta Arachnologica, 50:121-122.

Ômura, H.*, Y. Kuwahara*, and T. Tanabe (2002.2) Species-specific chemical compositions of defence secretions from *Pararafontaria tonominea* Attems and *Riukiararia semicircularis semicircularis* Takakuwa (Polydesmida:Xystodesmidae). Applied Entomology and Zoology, 37:73-78.

〈植物〉

木下 覺*・赤澤時之*・植北ちず子*・小川 誠・片山泰雄*・木村晴夫*・木内和美*・田淵武樹*・真鍋邦男*・水上敏夫* (2001.3) 相生町の植物相. 阿波学会紀要第47号、総合学術調査報告相生町. 47-64. 阿波学会・徳島県立図書館.

Ibaragi, Y. and H. Ohashi* (2001.8) Taxonomy and distribution of *Calamagrostis brachytricha* var. *ciliata* (Gramineae) The Journal of Japanese Botany, 76 (4) : 231-236.

〈地学〉

香西 武*・石田啓祐*・橋本寿夫*・森江孝志*・中尾賢一・森永 宏*・福島浩三* (2001.3) 徳島県相生町に分布する黒瀬川帯の地質. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告：相生町」(阿波学会紀要47号), 徳島県立図書館：1-17.

〈考古〉

天羽利夫(2001.4) アンデスの黄金文化. 徳島新聞, 4月14日掲載.

天羽利夫 (2001.5) 窮鼠人を噛む. 徳島新聞, 5月12日掲載.

天羽利夫 (2001.6) 旧石器遺跡ねつ造問題. 徳島新聞, 6月9日掲載.

天羽利夫(2001.7) アイヌ文化を訪ねて. 徳島新聞, 7月7日掲載.

天羽利夫 (2001.8) 献体に思う. 徳島新聞, 8月4日掲載.

天羽利夫 (2001.9) クラシックカメラ. 徳島新聞, 9月1日掲載.

天羽利夫 (2001.9) 小さな前方後円墳. 徳島新聞, 9月29日掲載.

天羽利夫 (2001.10) 世界遺産の旅. 徳島新聞, 10月27日掲載.

天羽利夫(2001.11) ありがとう恰美術館. 徳島新聞, 11月24日掲載.

天羽利夫 (2001.12) 徳島城下町を掘る. 徳島新聞, 12月22日掲載.

魚島純一 (2001.6) 窒素による簡易な燻蒸装置の試作とその可能性. 日本文化財科学会第18回大会研究発表要旨集：212-213

魚島純一 (2002.3) 樋端墳丘墓出土赤色顔料関係遺物の蛍光 X 線分析. 白鳥町町内所在遺跡発掘調査報告書.

神庭信幸*・松田隆嗣*・宮衛*・魚島純一 (2002.3) 博物館施設における温湿度測定調査. 平成11年度～13年度科学研究費補助金研究成果報告書：研究課題「博物館資料の保存環境としての木質空間の特性」：254-301

〈歴史〉

山川浩實 (2002.3) 企画展展示資料紹介：興福寺金銅鎮壇具・金銅脚付杯 (国宝), 徳島新聞 3月14日朝刊. 牛皮華華鬘 (国宝), 徳島新聞 3月15日朝刊. 菩薩立像 (重要文化財), 徳島新聞 3月18日朝刊. 川端龍子「金閣炎上」, 徳島新聞 3月19日朝刊.

長谷川賢二 (2001.3) 二二番平等寺から福井町小野まで. 徳島県教育委員会編「徳島県歴史の道調査報告書5：遍路道」, 徳島県教育委員会：108-110.

長谷川賢二 (2001.7) 戦前期徳島における博物館事情. 博物館史研究 (11) : 1-8.

長谷川賢二 (2001.7) 新刊紹介：菅 豊著『修験がつくる民俗史』. 日本史研究 (467) : 89.

長谷川賢二 (2001.8) ひんやりとした静寂. 北方少数民族資料館 ジャッカ・ドフ ニュース nadasa (2) : 5-6.

長谷川賢二 (2001.10) 書評：金子淳著『博物館の政治学』. 月刊ミュゼ (49) : 32.

長谷川賢二 (2001.10) 三好長慶の宝物—特別展「勝瑞時代」から7：丹波焼蔵骨器・長宗我部元親起請文. 徳島新聞10月31日夕刊.

長谷川賢二 (2001.10) 水平社博物館をめぐる寸感. ルシファー (4) : 4-11.

(4) 学会・研究会等での発表

(*印は館外の研究者)

大原賢二 (2002.2) アサギマダラの移動の記録、2001年四国. 日本鱗翅学会四国支部第7回例会(新居浜). 上月康則*・佐藤陽一・村上仁士*・花住陽一*・倉田健悟*・佐良家康*・尾関朋幸* (2001.5) 以西用水路網におけるメダカの分布拡大に関する調査. 平成13年度土木学会四国支部第7回技術研究発表会(松山).

花住陽一*・上月康則*・倉田健悟*・村上仁士*・田代優秋*・佐藤陽一 (2001.8) 用水路におけるメダカの生息環境と保全について. 第25回洗剤・環境科学研究会(徳島).

佐藤陽一・岡部健士*・竹林洋史* (2001.10) ロジスティック回帰モデルによる河川性魚類の出現/非出現の予測. 2001年度日本魚類学会年会(鹿児島).

上月康則*・佐藤陽一・倉田健悟*・田代優秋*・花住陽一*・田中 剛*・村上仁士* (2002.3) 貧酸素水中でのメダカの行動に関する実験. 四国魚類研究会(西土佐村).

上月康則*・佐藤陽一・倉田健悟*・花住陽一*・田中剛*・長池 洋*・村上仁士* (2002.3) メダカに対するカダヤシの攻撃行動に関する調査実験. 四国魚

類研究会（西土佐村）。

田辺 力・曾田貞滋*（2001.8）2型を持つミユラー型擬態の可能性：ババヤステ科の体色。日本蜘蛛学会第33回大会（那覇）。

田辺 力・曾田貞滋*（2001.9）ミユラー型擬態における2型の可能性：ババヤステ科の体色について。日本昆虫学会第61回大会（仙台）。

田辺 力・曾田貞滋*（2002.3）ババヤステ属における交尾器形態の多様化：大型化とそのコスト。日本生態学会第49回大会（仙台）。

小川 誠（2001.11）徳島県のアキノタムラソウとその近縁種について。四国植物研究会（高知県夜須町）。

大川ち津る*・小川 誠（2002.1）種子植物2,172種の検索用データベースを活用した植物の検索－Windows版とMacintosh版を用いて－。生物教育学会（静岡）。

小川 誠（2002.3）仕事に使えるデータベースの事例－徳島県版レッドデータブック作成編－。MML研究会（大阪）。

中尾賢一（2001.5）口之津層群の海成層。第4回九州第四紀露頭見学会（島原）

魚島純一（2001.6）窒素による簡易な燻蒸装置の試作とその可能性。日本文化財科学会代18回大会（奈良）

長谷川賢二（2001.6）熊野三山奉行考。鳴門史学会例会（鳴門）

長谷川賢二（2001.6）郷土博物館興隆の時代と徳島。徳島地方史研究会例会（徳島）

長谷川賢二（2001.10）熊野三山奉行考。日本山岳修験学会第22回大会（島原）

長谷川賢二（2001.11）熊野三山奉行考。延暦寺文書復元研究会（京都）

庄武憲子（2001.8）徳島県の盆棚。四国民俗学会（徳島）

庄武憲子（2002.1）徳島県の祭礼山車のかたち。徳島民俗学会例会（徳島）

●四国民俗学会

開催日：8月19日

会場：博物館講座室

参加者：15名

●第39回四国中世史研究会

開催日：11月3日

会場：博物館講座室

参加者：19名

●植物談話会

開催日：平成13年4月～14年3月までの毎月1回開催（土曜日の18：30から）

会場：博物館実習室

参加者：毎回約15名

6. 研究会・学会等の開催

●徳島博物館研究会

開催日：5月28日、6月16日、8月10日

会場：博物館応接室または講座室

参加者：毎回約10名

●日本昆虫学会四国支部第40回大会

開催日：7月20日

会場：博物館講座室

参加者：43名

Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。徳島の自然や歴史・文化に関する資料は可能なかぎり網羅的に収集することはもちろん、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として四国や西日本の資料も収集していくことにしている。とくに自然の各分野においては、日本の地史や生物相の形成に深い関係のある中国大陸や東南アジアをはじめ、海外まで目をむけた収集も必要になる。

資料の収集は、購入・寄贈・採集・交換など様々な方法で行っている。最近では、県民からの資料の寄贈も増えてきている。資料の購入には美術品等取得基金を充てている。

平成13年度は7名（人文3、自然4）の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 購入資料

●動物

- アカメほか剥製 4点
世界のコガネムシ科ほか甲虫類標本（石田正明コレクション）* 70,000点

●地学

- ダイヤモンドほか外国産鉱物 3点
紅簾石 7点
スカルン鉱石ほか鉱物・鉱石標本 15点
ペルノパクテンほか貝化石 16点
マンモス臼歯つき下顎骨 1点
ツリテラおよびマツ球果化石 2点
中生代頭足類化石 3点
フラグモテウチスほか貝化石 19点
オパール化した三角貝ほか貝化石 15点

●考古

- 袈裟禪文銅鐸（伝徳島県内出土）* 1点

●歴史

- 五七桐紋矢箱 1点
古戦之図 1点
摂州大坂冬夏共ニ首帳 2点
三河国長篠合戦図 1点
万字紋三宝 1点
空襲関係資料 6点

- 葵万字紋蒔絵箱 1点
合戦関係武具 3点
蜂須賀阿波守書状、武将花押集 1点
阿州劔山谷右衛門錦絵版画 1点
名東県庁関係文書 63点
家督相続文書 2点
徳島県関係絵ハガキ 40点
蜂須賀飛騨守書状 1点
蜂須賀家万字紋蒔絵重箱 1点
松平阿波守外夷通商中上書 1点
松平阿波守忠英書状 1点
戦時国民生活用品 2点
太閤実記雪月花之内矢矧之月錦絵版画 1点
前田利嗣書状 1点

●民俗

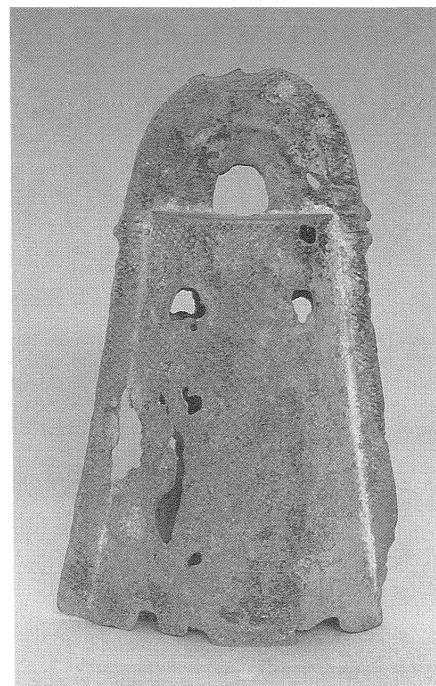
- 丸目頭荒彫りほか 6点

●美術工芸

- 飯塚桃葉作 蔓唐草蒔絵引出 1点
渡辺広輝筆 源氏物語薄雲図 1点
伝小堀遠州作 虫食竹花入 銘旅衣* 1点

(*印は13年度資料収集委員会における審査資料)

購入資料合計 70,224点



袈裟禪文銅鐸（伝徳島県内出土）

2. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

ツグミ	1点	東條 秀徳氏
高知県物部川・仁淀川産魚類標本	多数	高橋 弘明・橋本 健一氏
クボハゼ	4点	吉田 裕之氏
カムルチー	1点	花住 陽一氏
キバシリ	1点	猪俣 栄一氏
徳島市沖洲海岸産魚類標本	多数	曾良 寛武氏
イドミミズハゼ	2点	近藤 昭二氏
アカショウビン	1点	猪俣 栄一氏
愛媛県宇和島産淡水魚類標本	多数	水野 晃秀氏
外国産ナマズ類	1点	徳元 龍介氏
松茂町産魚類標本	多数	平野 嘉久氏
コノハズク	1点	萬宮 翔平氏
トビ	1点	徳山 豊氏
双頭アオダイショウ	1点	松永 清氏
ハイタカ・ヒヨドリ	2点	吉田 和人氏
マガモ	1点	吉田 和人氏
松茂町産魚類標本	多数	平野 嘉久氏
マガモ	1点	徳山 豊氏
ハイタカ	1点	武田 浩文氏
キジバト	1点	原 道一氏
勝浦川河口産魚類標本	多数	野元 彰人氏
外国産陸ガメ	1点	市原 眞一氏
香川県産海産魚類標本	多数	横川 浩治氏
ノウサギ	1点	東條 秀徳氏
ノスリほか	4点	吉田 和人氏
トラツグミ	1点	萬宮 翔平氏
茨城県酒沼産魚類標本	多数	国立科学博物館
キツネ	1点	宮下 晃一氏
イタチ	1点	吉見 幹子氏

●動物（無脊椎動物）

オホーツク海・牟岐沖等産甲殻類剥製	210点	浅田 長治氏
高知県産水生無脊椎動物標本	9,046点	高橋 弘明・橋本 健一氏
香川県庵治町沖産無脊椎動物標本	2258点	横川 浩治氏
アカガイ・タイラギ等	286点	横川 浩治氏
徳島市勝浦川産無脊椎動物標本	816点	野元 彰人氏
徳島市吉野川河口産貝類標本	23点	岡本 真弓氏
イセエビ	1点	原 道一氏
サキグロタマツメタガイ	1点	四宮 義明氏
●動物（昆虫）		
日本昆虫大図鑑	1点	高橋 永一氏

昆虫界別刷	12点	高橋 永一氏
東京市産小蛾類	305点	高橋 永一氏
フチグロトゲエダシャク標本	2点	三木 将義氏

●植物

ヒゲネワチガイソウほか	多数	片山 泰雄氏
スズシロソウほか	多数	田淵 武樹氏
ミゾシダモドキほか	50点	中池 敏之氏
カラクサナズナほか	3点	森本 康滋氏
キヨスミオオクジャクほか	3点	中村喜代治氏
ホソバワダン	1点	飯山 昭美氏
キクシノブ	1点	遠藤 憲佑氏
タデアイ	1点	吉成 宏氏
<i>Miscanthus eulalioides</i> タイプ標本写真	1点	R. Russell氏

●地学

和泉層群産化石	4点	橋本 寿夫氏
和泉層群産化石	9点	橋本 寿夫氏
モロッコ産古生代頭足類化石	1点	坂東 康文氏
国内産貝化石ほか	13点	株式会社小室宝飾
鳴門海峡海底産化石	12点	小野 守氏
立川層産淡水棲貝化石	19点	白石 弘幸氏
古琵琶湖層群化石ほか	7点	羽島 俊男氏
高知県唐浜産貝化石	2点	大三 直人氏
上勝町産三角貝化石	1点	竹野 雅夫氏

●歴史

宝尽蒔絵重箱他	8点	久次米義文氏
アメリカ製縁打式短銃	1点	三好 博之氏
テルミットマグネシウム焼夷弾他	2点	伊丹 功氏
旧日本陸軍パラシュート他	3点	多田 雄二氏
旧日本陸軍軍歌レコード	2点	天羽 利夫氏
旧日本海軍航空隊飛行訓練写真	5点	廣田 正則氏
寛永通宝他貨幣	265点	原 道一氏
板碑拓本	12点	竹條 教悟氏

●民俗

重箱ほか	22点	犬伏美代子氏
野風呂ほか	5点	今村 清子氏

3. 寄託資料

●動物

阿南市漂着マッコウクジラ下顎歯	3点	阿南市教育委員会
-----------------	----	----------

●考古

縄文土器・くぼみ石・石匙・有舌尖頭器	5点	青木 幾男氏
--------------------	----	--------

●分野別収蔵資料数（平成14年3月31日現在）

分野	点数	内訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	16,545	16,477	55	7	6
（無脊椎）	36,094	36,036	0	58	0
（昆虫）	181,398	181,011	0	3	384
植物	181,191	180,844	61	5	281
地学	6,565	6,472	91	2	0
考古	3,338	3,194	72	13	59
歴史	8,488	7,771	23	4	690
民俗	4,594	4,584	5	5	0
美術工芸	5,006	4,997	0	4	5
合計	443,219	441,386	307	101	1,425

郡里廃寺（立光寺）跡出土瓦 2点 津田 篁史氏
備前甕・壺 2点 前田 薫氏
石棒（神山町鍋岩出土） 1点 高下 正義氏

●歴史

廣田家資料 16点 廣田 正則氏
三好家先祖事績之図 1点 田中 弘茂氏
一石五輪塔 1点 宮の内部落

●民俗

久米惣七人形コレクション 149点 久米 仁氏
上流武家婦人婚礼用打掛 3点 穴吹町教育委員会

●美術工芸

蜂須賀治韶書ほか 784点 瀬尾 光江氏
閑々子関係作品 23点 齊藤 真倫氏
槍 銘康継 1点 川人美知子氏

4. 資料の貸し出し

●動物

ニホンカワウソ剥製 1点 広島県立歴史博物館
カスリハゼ

1点 神奈川県立生命の星・地球博物館

昆虫標本 4箱 徳島市立鮎喰教育集会所

●地学

三葉虫，アンモナイトほか化石標本 13点
藍住東中学校

●考古

若杉山遺跡出土品 2点 山城町石の博物館
復元青銅器・石鏃 26点 応神中学校
若杉山遺跡 D-8区出土土器 岡山真知子
恵解山9号墳出土珠文鏡ほか青銅鏡，鉄製武器など

19点 徳島市教育委員会（徳島市立考古資料館）
郡里廃寺出土瓦 1点 満濃町教育委員会
内ノ御田瓦窯出土瓦ほか瓦・土器類 24点 徳島市
教育委員会（徳島市立考古資料館）

●歴史

徳島大空襲関係資料 9点（株）徳島エコノミージャーナル
阿波火縄銃 4点 上勝中学校長

●美術工芸

万宝来蔵ほか 6点 海南町立博物館
鈴木其一筆 月に芋図 1点 細見美術館
森崎家資料粉本 3点 徳島市立徳島城博物館

5. 資料の交換

●植物

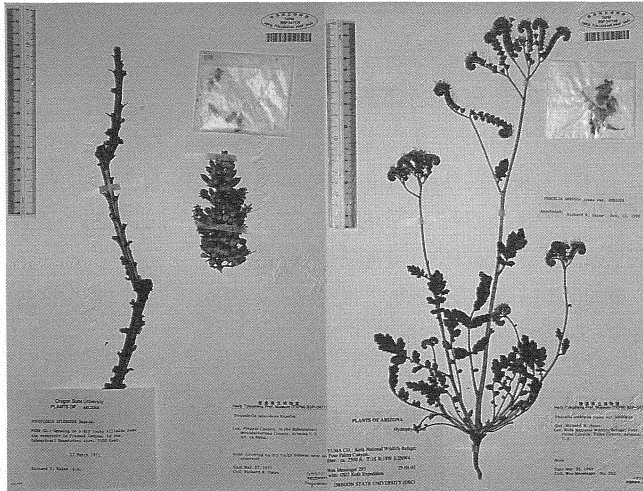
東北大学（TUS） 495点
福島大学（FUKU） 145点
北海道大学（SAPS） 83点
Oregon State University（OSC） 650点

6. 特筆すべき資料の受入と整理

●楠コレクション

楠弘美氏より、美術・歴史・民俗資料3087点の寄贈を受けた。これは、徳島県鳴門市出身の楠茂氏・育治氏（ともに故人）が収集・保管してきた絵画・書跡・陶磁器・書籍・古銭・人形頭などである。

その中には、重要美術品の後伏見院院宣のほか、渡辺広輝筆光格上皇修学院御幸儀仗図巻，同人筆祖谷山



Oregon State University (OSC) との交換標本の一部

絵巻、守住貫魚筆全国名勝絵巻の3件の徳島県指定有形文化財が含まれており、また富岡鉄斎書状、棟方志功作大和し美し版画巻などがある。

7. 館蔵資料数

平成13年3月末日現在の分野別収蔵資料数は前表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等がすんだものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

8. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は、購入資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。常任委員は平成14年1月7日で任期切れのため、新たに委嘱手続きを行い、2名が再任、3名が新任された。

本年度は、平成14年2月5日に第15回委員会を開催し、「1. 購入資料」にリストした自然資料1件、人文資料2件の購入を諮問した。

●博物館資料収集委員会委員（平成12.1.8～14.1.7） （◎委員長、○副委員長）

氏名	役職（専門分野）
◎湯浅 良幸	徳島史学会会長（民俗）
○高橋 啓	鳴門教育大学学校教育学部教授（歴史）
生野 勇	日本美術刀剣保存協会評議員（美術工芸）
石井 愷義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田 啓祐	徳島大学総合科学部教授（地学）
* 荒川 浩和	文部省文化財保護審議会専門委員（漆工史）

* 第14回委員会の特別委員

●博物館資料収集委員会委員（平成14.1.8～16.1.7） （◎委員長、○副委員長）

氏名	役職（専門分野）
◎高橋 啓	鳴門教育大学学校教育学部教授（歴史）
石田 啓祐	徳島大学総合科学部教授（地学）
坂本 憲一	徳島県文化振興財団事業部主幹（民俗）
福原 健生	元徳島市立德島城博物館館長（美術工芸）
米澤 義彦	鳴門教育大学学校教育学部教授（生物）
* 東 潮	徳島大学総合科学部教授（考古）

* 第15回委員会の特別委員

9. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。た交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数）

10,822冊（平成13年度分 259冊）

●購入雑誌

自然史系（26タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プラント、

月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、American Journal of Botany, Cladistics, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Paleobiology, Plant Systematics and Evolution, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Biological Journal of Linnean Society

人文系(34タイトル)：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、民族学研究、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、Folklore, Journal of American Folklore

●当館刊行物の定期発送先(平成14年3月末現在)

博物館ニュース		1,434ヶ所
博物館年報		491ヶ所
研究報告	国内	547ヶ所
	国外	158ヶ所
展示解説		237ヶ所
企画展図録	自然	130ヶ所
	人文	236ヶ所

10. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料は、原則としてすべて収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

当館では資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm(約2.3m³)で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

13年度は14回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫(24時間空調)に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m²×高さ3m(約60m³)であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用してい

る。

13年度は、4回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

前回は11年度に実施したので、今回は14年度に実施する予定である。

Ⅳ 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成13年度は、年間68回の普及行事を実施した。博物館の普及行事が県民のあいだに定着してきているが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。そのため、歴史散歩、野外自然かんさつ、移動講座において、郡部での開催を増やすなど工夫している。

また、「博物館と学校との連携に関する研究会」は、2年目になりモデル授業など具体的な取り組みを行った。

5月20日(日)	ツツジがいっぱいの春山ウォーク	6人
5月27日(日)	磯のいきもの②	98人
6月3日(日)	川原の石ころしらべ	32人
6月16日(土)	光に集まる昆虫のかんさつ	39人
7月29日(日)	漂着物を探そう!	36人
8月4日(土)	水生昆虫のかんさつ	78人
9月8日(土)	鳴く虫のかんさつ	49人
9月16日(日)	河口のいきもの	39人
10月14日(日)	アサギマダラのかんさつ	31人
10月21日(日)	野原でハーブをさがそう! 雨天中止	
11月11日(日)	板野町の地質と中央構造線	22人

■土曜トピックス

毎月第2土曜日の午後2時から1時間ほど、学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。申し込み不要・定員先着50名で実施している。

4月14日(土)	蒔絵の美—観松齋桃葉—	7人
5月12日(土)	害虫から博物館資料をまもる	4人
6月9日(土)	昆虫の飼い方	44人
7月14日(土)	夏休みにおすすめの植物観察	21人
8月11日(土)	盆の水棚	12人
9月8日(土)	まぼろしの博物館を探る	9人
10月13日(土)	南中国の地層に記録されたカンブリア紀の大爆発	19人
11月10日(土)	モラエスが見た徳島—モラエスとの女性たち	13人
12月8日(土)	吉野川は北流していたか	18人
1月12日(土)	小さな前方後円墳—石井町前山古墳群	24人
2月9日(土)	南の島の草花	6人
3月9日(土)	インドネシア—ジャングルの小さな動物たち	8人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、

1. 普及行事

■体験学習

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

4月22日(日)	石ヤリをつくろう	参加者	27人
7月28日(土)	火おこし①		55人
9月2日(日)	火おこし②		49人
10月7日(日)	土器づくり①(成形)		22人
11月11日(日)	土器づくり②(焼成)		20人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

5月27日(日)	古墳見学①	雨天中止
6月10日(日)	モラエスと歩こう	26人
12月16日(日)	一宮城を歩こう	27人
2月24日(日)	古墳見学②	28人
3月17日(日)	貞光を歩こう	19人

■野外自然かんさつ

野外にでかけて行う季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。13年度は文化の森周辺のほか、徳島市、鳴門市、石井町、勝浦川河口、宍喰町、阿南市、由岐町、鮎喰川川原、板野町などで実施した。

4月8日(日)	地層と生痕化石のかんさつ—宍喰町—	6人
5月13日(日)	磯のいきもの①	84人

いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

7月15日(日)	かんたんな貝の標本のつくり方	43人
8月5日(日)	植物標本の作り方・名前の調べ方	19人
8月22日(水)	標本の名前をしらべる会	65人
10月28日(日)	身近な文化財の保存方法	3人
11月18日(日)	貝化石標本の作り方	19人
1月27日(日)	落ち葉の中のいきものたち (こども向け)	26人
8月11日(土)	こどもレプリカ教室	34人
9月23日(日)	石のナイフで肉を切ってみよう	28人
1月20日(日)	まぼろしの食べ物をつくろう	20人
2月10日(日)	ベーゴマをまわしてみよう	31人

■移動講座

移動博物館の試みとして、学芸員が講師をつとめて館外の社会教育施設と共催で行う講座。13年度は5～7月に井川町ふるさと交流センターで、10～12月に阿波海南文化村で実施した。

5月27日(日)	発掘が語る徳島①	23人
6月24日(日)	発掘が語る徳島②	35人
7月29日(日)	発掘が語る徳島③	25人
10月21日(日)	発掘が語る徳島①	22人
11月11日(日)	発掘が語る徳島②	17人
12月16日(日)	発掘が語る徳島③	21人

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。

7月22日(日)	葉脈標本を使ったしおり作り	50人
8月19日(日)	押し花カルタで遊ぼう	37人
11月25日(日)	野草で年賀状を作ろう	53人
12月2日(日)	ウツギの笛づくり	19人
12月9日(日)	どんぐりでコマを作ろう	16人
2月3日(日)	竹であそぼう	32人

■企画展関連行事

企画展開催中に、次の記念講演会及び展示解説を行った。

●企画展「クントウル・ワシ神殿の発掘」記念講演会

4月15日(日)

会場：文化の森イベントホール

講師：大貫良夫（東京大学名誉教授・野外民族博物館リトルワールド館長）

演題：「アンデスの黄金―クントウル・ワシ神殿の発掘―」

参加者：170人

●企画展「クントウル・ワシ神殿の発掘」展示解説

第1回：4月22日(日) 参加者50人

第2回：4月29日(日) 参加者72人

●企画展「門出のセレモニー」記念講演会

8月12日(日)

会場：文化の森イベントホール

講師：近藤直也氏（九州工業大学情報工学部教授）

演題：「白無垢と綿帽子の思想―徳島県下の婚礼・葬送儀礼をめぐって―」

参加者：63人

●企画展「門出のセレモニー」展示解説

第1回：7月29日(日) 参加者30人

第2回：8月19日(日) 参加者15人

●企画展「信仰と美術」記念講演会

3月10日(日)

会場：文化の森イベントホール

講師：松浦正昭氏（奈良国立博物館仏教美術研究室長）

演題：仏像と日本美術

参加者：226人

●企画展「信仰と美術」展示解説

第1回：2月24日(日) 参加者38人

第2回：3月2日(土) 参加者55人

■特別陳列関連行事

●特別陳列「勝瑞時代」展示解説

第1回：11月3日(土・祝) 参加者100人

第2回：11月18日(日) 参加者40人

■前山1号墳発掘調査にともなう現地説明会

9月9日(日)

会場：前山古墳群

説明：当館の職員、栗林誠治氏・田川憲氏・大北和美氏（徳島県埋蔵文化財センター）

参加者：150人

■クイズラリー

第2・第4土曜日（長期休業日を除く）に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に簡単な記念品を贈呈している。

4月14日(土) 102人 (小 94・中5・高3)

4月28日(土) 141人 (小 135・中5・高1)

5月12日(土) 122人 (小 115・中7・高0)

5月26日(土) 158人 (小 155・中3・高0)

6月9日(土)	163人	(小 153・中10・高0)
6月23日(土)	149人	(小 138・中8・高3)
7月14日(土)	117人	(小 112・中5・高0)
9月8日(土)	109人	(小 102・中7・高0)
9月22日(土)	95人	(小 88・中7・高0)
10月13日(土)	107人	(小 101・中6・高0)
10月27日(土)	118人	(小 114・中4・高0)
11月10日(土)	89人	(小 88・中1・高0)
11月24日(土)	102人	(小 102・中0・高0)
12月8日(土)	107人	(小 105・中2・高0)
12月22日(土)	54人	(小 53・中1・高0)
1月12日(土)	99人	(小 98・中1・高0)
1月26日(土)	75人	(小 75・中0・高0)
2月9日(土)	126人	(小 116・中10・高0)
2月23日(土)	107人	(小 106・中1・高0)
3月9日(土)	124人	(小 123・中0・高1)
3月23日(土)	98人	(小 95・中3・高0)
参加者合計	2,264人	(小2,173・中83・高8)

■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル

5月5日(土)

博物館と友の会の共催でウォークラリーを実施した。文化の森に10のチェックポイントを設置し、それぞれの問題を解きながら各施設をめぐる。小学生以下の子どもたちには記念品を贈呈した。

参加者：1,009人

2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容(依頼者)の順に記す(内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略)。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

4月5日	茨木 靖	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(レンゲ)
4月19日	小川 誠	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(ツツジ)
4月21日	両角芳郎	NHK テレビ「おはよう四国」出演(企画展「クントゥル・ワシ神殿の発掘ーアンデス最古の黄金芸術ー」の紹介)
4月27日	両角芳郎	NHK テレビ「情報交差点ーOURギャラリー」出演(企画展「クントゥル・ワシ神殿

の発掘ーアンデス最古の黄金芸術ー」の紹介)

5月30日	魚島純一	徳島県博物館協議会総会で講演「ロサンゼルス博物館事情」
6月5日	魚島純一	徳島西ロータリークラブ例会で卓話「科学の目で「銅鐸」を探る」
6月7日	佐藤陽一	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(スナヤツメ)
6月21日	田辺 力	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(ムカデのはなし)
7月5日	田辺 力	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(ヤスデ)
7月10日	魚島純一	四国地区博物館協議会総会で講演「地震災害と博物館ーその時博物館には何ができるか」
7月26日	魚島純一	徳島県立文書館古文書保存講座で講演「文書資料の保存科学」
8月2日	小川 誠	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(グンバイヒルガオ)
9月27日	小川 誠	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(フクド)
10月11日	大原賢二	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(ゴキブリのはなし)
11月8日	長谷川賢二	NHK テレビ「情報交差点とくしまーOURギャラリー」出演(特別陳列「勝瑞時代」紹介)
11月22日	茨木 靖	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(ヤシの実)
12月6日	中尾賢一	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(鳴門海峡のナウマンゾウ化石)
12月17日	長谷川賢二	NHK 大河ドラマ「北条時宗」テレビセミナーで講演「中世の国際交流」(徳島県郷土文化会館)
1月11日	長谷川賢二	四国放送ラジオ「えんやこらワイドーNTT DOCOMO 街角レポート」出演(室内実習「まぼろしの食べ物をつくろう」紹介)
1月19日	長谷川賢二	NHK 大河ドラマ「北条時宗」テレビセミナーで講演「うわさ・女・鬼ー蒙古襲来と世相」(徳島県郷土文化会館)
1月24日	両角芳郎	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(徳島県の恐竜化石)
2月3日	天羽利夫・長谷川賢二	親しむ博物館づくり事業シンポジウムパネリスト(松茂町歴史民俗資料館)
2月7日	大原賢二	NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(昆虫の名前)
2月21日(木)	山川浩實	四国放送テレビ「おはよう徳島」出演(企画展「国立博物館・美術館巡回展ー

信仰と美術―」紹介)

3月15日 魚島純一 四国放送ラジオ「えんやこらワイドーNTT DOCOMO 街角レポート」出演(部門展示「おまけになった動物たち」紹介)

3月28日 中尾賢一 NHK テレビ「情報交差点ーネイチャー徳島」出演(三角貝化石)

3. 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条で、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに承諾書を発行することになっている。

平成13年度は、8月20～24日に実習生の受け入れを行った。実習生は17人(男4人、女13人)で、大学別の内訳は次のとおりである。

四国大学	8人	広島大学	1人
徳島大学	3人	島根大学	1人
帝京大学	2人	山口県立大学	1人
静岡大学	1人		

カリキュラムは別表のとおりで、指導の都合上、少人数のグループに分割した時間帯もある。学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

4. 学校教育との連携

博物館ではこれまでも、学校行事(遠足等)での団体見学の受け入れや児童・生徒向けの各種普及行事などを行ってきた。しかし、最近の教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合学習」の導入、社会人講師の受入れ等々と関連し、博物館等の社会教育機関に対してもっと積極的な学校教育への支援が要請されるようになってきた。

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって役立つところであるはずである。当館としても博物館のもつ資源(もの・情報・人)とその活用法を普及するとともに、意識的・系統的に学校教育を支援する活動を行っていくことにしている。

平成12年度に引きつづき「博物館と学校との連携に関する研究会」(略称「博学連携研究会」)を開催し、博物館と学校との連携のあり方等についての協議を行った。

●13年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前(9:30~12:00)		午後(13:00~16:00)		(16:00~16:30)
8/20(月)	オリエンテーション(両角)	全員	博物館の情報提供(小川)	全員	ノート記入 全員
	博物館の運営について(天羽)	全員			
	館内見学(両角)	全員			
8/21(火)	化石標本の作製(中尾)	A班	展示及び普及行事の企画(田辺)	A班	ノート記入 全員
	展示及び普及行事の企画(田辺)	B班	化石標本の作製(中尾)	B班	
	脊椎動物標本の収集と整理(佐藤)	C班	化石標本の整理(両角)	C班	
8/22(水)	歴史資料の調査と整理(長谷川)	A班	歴史資料の整理(山川)	A班	ノート記入 全員
	歴史資料の整理(山川)	B班	歴史資料の調査と整理(長谷川)	B班	
	標本の名前を調べる会補助(小川)	C班	標本の名前を調べる会補助(小川)	C班	
8/23(木)	民具資料の整理(庄武)	A班	民具資料の整理(庄武)	A班	ノート記入 全員
	植物の処理と標本作成(茨木)	B班	化石標本の整理(両角)	B班	
	昆虫採集と標本作成(大原)	C班	昆虫採集と標本作成(大原)	C班	
8/24(金)	化石レプリカの作成(両角)	A班	博物館の広報と発送(山口・坂本)	A'班	ノート記入 全員
	古美術品の取扱い方(大橋)	B班	博物館の資料保存(魚島)	B'班	
	植物の処理と標本作成(茨木)	C班	遺跡の発掘調査(高島)	C'班	

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合学習」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言するなどの支援を行った。

- ①加茂名中学校（徳島市）2年生・6人
9月19日（水）～21日（金）
地域体験学習「チャレンジ・トゥゲザ」で博物館を選んだ生徒を受け入れ、学芸員等10人が指導して各種業務を体験してもらった。
- ②北灘中学校（鳴門市）1年生・14人 9月30日（土）
発展学習「博物館での化石の学習」で来館。事前に出前授業をしていたため、熱心に取り組んでいた。（指導：両角）
- ③八万南小学校（徳島市）3年生・64人
10月16日（火）
総合学習（調べ学習）で来館。事前に展示を見学し質問をもつての再来館。説明後、博物館の裏側見学も行った。（指導：両角・高島・佐藤・大橋・庄武・茨木）
- ④早稲田実業学校（東京都）高等部2年生・6人
12月20日（木）
校外教室（地域調査）「阿波藩についての調査」で来館。（指導：山川）
- ⑤福島小学校（徳島市）3年生・113人
1月29日（火）
社会科「むかしの道具しらべ」で来館。収蔵資料を陳列し、体験してもらった。（指導：庄武）

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①八万南小学校（徳島市）5月1日（火）・2日（水）
6年生4クラスで社会科の学習「火おこし」の授業を、博物館から持参した火おこしの道具を使って教員と協同して行った。（講師：魚島）
- ②大松小学校（徳島市）5月2日（水）
6年生2クラスで社会科「徳島の古墳の話」の授業を行った。（講師：高島）
- ③八万南小学校（徳島市）7月7日（土）
4年生113名で校外学習として園瀬川の水生生物調査を行った。（講師：大原）
- ④内町小学校（徳島市）7月16日（月）
5年生1クラスで総合学習として、「押し葉を使っ

たカルタづくりを行った。（講師：小川）

- ⑤北灘中学校（鳴門市）9月14日（金）
博学連携モデル事業として、1年生1クラスで理科「化石の学習」の授業を、博物館から持参した化石標本を使って教員と協同して行った。（講師：両角）
- ⑥八万中学校（徳島市）1月16日（水）・17日（木）
博学連携モデル事業として、3年生2クラスで選択理科「化石の学習」の授業を、博物館から持参した化石標本を使って教員と協同して行った。（講師：両角）

(3) 博物館資料の学校への貸出し

学校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。

貸出用資料の一層の利用促進を図るため、年度末に学校貸出用資料解説シートを印刷し、小中学校および高校に配付した。

- ①応神中学校（徳島市）6月16日～6月19日
貸出資料：復元青銅器（銅鐸、銅剣、銅矛、銅戈）
石鏃22点
利用目的：社会科の授業で利用
- ②市場中学校 11月1日～11月10日
貸出資料：徳島大空襲解説パネル・徳島大空襲写真パネル・徳島大空襲グラフィックパネル・空襲警報発令中看板・防空頭巾・徳島大空襲遺物
利用目的：文化祭の展示資料として活用
- ③上勝中学校 11月25日～11月29日
貸出資料：阿波火縄銃（狭間筒）阿波火縄銃（陣筒）
利用目的：勝浦郡社会科研究会の教材として利用
- ④藍住東中学校 2月19日～2月28日
貸出資料：三葉虫類・アンモナイト類など化石資料
13点
利用目的：理科の授業で利用

(4) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

その他、徳島県教育委員会からの依頼により、教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。

●平成13年度初任者研修講座

7月31日(火) 博物館講座室 参加者16人
 講義：博物館の概要及び学校教育との連携
 (講師：天羽)
 博物館の普及活動について (講師：山口)
 見学：博物館の裏側見学
 (案内：大原・魚島・山口・坂本)

●平成13年度社会科・地歴科・公民科研修講座

8月7日(火) 博物館講座室 参加者16人
 講義・見学：博物館の概要及び学校教育との連携
 (講師：山川)
 実習：新学習指導要領を踏まえた単元づくりと指導案づくり

●麻植郡小学校理科部会

8月8日(水) 博物館実習室
 講義と実習：「雑草を使った紙づくり」
 (講師：小川) 参加者12人
 常設展の展示解説および施設説明

●徳島県中学校社会科教育研究会理事会

3月6日(水) 博物館講座室
 説明：博物館の概要及び学校教育との連携
 参加者 33人
 企画展・企画展の展示解説および施設説明

(5) 博物館と学校との連携に関する研究会

博物館と学校との連携を進めるため、平成12年度に博物館職員と学校教員で構成される「博物館と学校との連携に関する研究会」(略称「博学連携研究会」)を設置した。

13年度は2回の研究会を開催し、博物館と学校との一層の交流を図るとともに、博物館における学校教育への支援のあり方及び学校教育における博物館の活用方法、博学連携モデル事業の実施等について協議した。

●第3回研究会

日時：6月27日(水) 15:00~17:00
 場所：博物館講座室
 議題：13年度の博学連携モデル事業について

●第4回研究会

日時：2月27日(水) 15:30~17:20
 場所：博物館講座室
 議題：13年度の博学連携事業について(報告)
 平成14年度の博学連携事業の進め方

●「博物館と学校との連携に関する研究会」委員名簿

(平成14年3月31日現在)

区分	委員名	勤務先	教科
学校教員	山西 節子	八万南小	社会
	大田 洋子	八万中	理科
	川北 淳	南小松島小	社会
	池内 裕之	石井中	理科
	森 義雄	北灘中	理科
	矢野 修	藍住南小	社会
	吉田 忠司	富岡小	理科
	福良 毅	上勝中	社会
	上松 正典	学島小	理科
博物館職員	板垣 昌彦	阿波中	社会
	両角 芳郎	(地学)	
	山口 英二	(普及係)	
	坂本 和裕	(普及係)	
	高島 芳弘	(考古)	
	小川 誠	(植物)	
	田邊 力	(動物)	
庄武 憲子	(民俗)		

5. 博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、企画展ポスター、年間催し物案内リーフレット、月間催し物案内等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動のPRにつとめている。これらは県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。さらに、電子メールを利用した催し物案内サービスも行った。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	239ヶ所
中学校	95
高等学校・その他学校	73
学会・研究所・同好会等	99
県および県教育委員会各課・機関	60
市町村教育委員会	50
公民館・隣保館	231
市町村および大学図書館	30
博物館施設	435
宿泊施設	44
報道関係機関等	65

●電子メールサービス

登録者 355人（平成14年3月31日現在）

●報道機関への資料提供

- 4月20日 「重要有形民俗文化財・鳴門の製塩用具」の初公開について
- 4月20日 「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について
- 6月1日 「牟岐沖産ほか甲殻類剥製の寄贈」について
- 6月14日 企画展「門出のセレモニー—婚礼・葬送の習俗—」の開催について
- 9月3日 前山1号墳発掘調査に伴う現地説明会について
- 9月26日 特別陳列「勝瑞時代—細川・三好氏と阿波」展の開催について
- 1月22日 「徳島藩御用絵師の資料—森崎家の粉本—」の展示について
- 1月25日 企画展「平成13年度国立博物館・美術館巡回展—信仰と美術—」の開催について
- 3月26日 企画展「貝化石が語る海の記憶」の開催について

以上のほか、毎月の催し物案内・県庁だよりや美術品等取得基金によって8月末、11月末、3月末に購入した資料の内容についても資料提供を行った。

6. 博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。博物館館内に事務局を置いている。

●会員（平成13年度末）

個人会員（年会費2,000円） 108人
 家族会員（年会費3,000円） 96組・371人

●役員（平成13年度）

会長：寺戸恒夫
 副会長：天羽利夫（博物館長）・和田賢次・関眞由子
 幹事：石原 侑・徳山 豊・多田精介・森本嘉訓・
 榎原剛一・鎌田幸子・南部洋子・竹原初江
 監査：森本康滋・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

博物館発行の企画展図録および解説書の増刷・頒布を行った。

②広報活動

13年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。

また、友の会会報「アワーミュージアム」No.16～18を発行し、会員に送付した。

③企画展・特別陳列説明会

企画展「クントゥル・ワシ神殿の発掘—アンデス最古の黄金芸術—」、「門出のセレモニー—婚礼・葬送の習俗—」、「信仰と美術」及び特別陳列「勝瑞時代—細川・三好氏と阿波—」の開催期間中に、会員を対象とした説明会を行った。

④野外活動等

会員を対象とした行事を10回実施した。

○潮干狩り

1時間ほど、潮干狩りを楽しんだ後、学芸員から、貝の種類や特徴について説明を行った。

日時：4月29日（日）13：00～15：00

場所：徳島市北沖洲海岸

参加者：10人

○こどもの日フェスティバル（博物館と共催）

文化の森全体を使ってウォークラリーを実施した。近代美術館や文書館の協力も得て10のチェックポイントをめぐった。参加した小学生以下の子どもたちには記念品を進呈した。

日時：5月5日（金）9：30～16：00

場所：文化の森総合公園

参加者：1,009人

○総会

日時：4月22日（日）14：00～15：00

場所：博物館講座室

参加者：20人

○第4回 園瀬川探検

昨年から続いている園瀬川探検の第4回目。上八万町の史跡や寺社を巡り、道ばたの動植物に驚きの声をあげながら探検をすすめた。

日時：6月10日（日）9：00～15：00

場所：上八万町

参加者：7人

○夜の昆虫かんさつ

クヌギなどの樹液に集まる昆虫をかんさつした。また、灯りに集まる昆虫に参加した子ども達も大喜びであった。

日時：7月28日（土）19：00～21：00

場所：佐那河内村

参加者：22人

○縄文土器の模様をつくろう

よりひもを使って様々な模様を粘土につけ、縄文人の気分を味わった。

日時：9月15日（土）13：00～16：00

場所：実習室

参加者：13人

○第5回 園瀬川探検

砂炎で有名な田中の集落から尾境まで歩いた。田中の集落では、地元の人に昔の話をいろいろ聞くことができた。また、途中、絶滅危惧種に指定されているフジバカマを発見した。

日時：9月24日(月) 9:00~15:00

場所：上八万町~佐那河内村尾境

参加者：15人

○秋の研修会(貸切バス使用)

一足早く秋が訪れた蒜山・大山の自然を満喫した。大山のブナ林や蒜山の牧歌的な風景を植物学・地理学の面からながめることができた。

日時：10月13日(土)~14日(日)

参加者：35人

○第6回 園瀬川探検

大宮神社や根郷の古墳などを探検した。絶滅危惧種のナガレホトケドジョウを見つけることができた。

日時：12月9日(日) 9:00~15:00

場所：佐那河内村尾境~同根郷

参加者：10人

○冬の研修会(貸切バス使用)

山内家宝物資料館・高知城・高知県立歴史民俗資料館で高知の歴史について研修を深めた。

日時：1月29日(日)

参加者：45人

7. 普及教育関係出版物

■博物館見学ノート

2001年11月3日第3版発行、B5判56ページ

小・中学校の児童・生徒が博物館の展示を利用するにあたり、その教育効果を高めるのに役立つように作成されたワークシート形式のテキスト。1992年3月31日に初版発行して、今回第3版を1,000部印刷した。

利用方法は多様であるが、主に遠足等で来館しワークシートでの学習を行う学校に配布している。

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で6,000部を印刷している。

平成13年度には次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

●No. 43 (2001年6月25日発行)

Culture Club 濱田耕作と徳島

情報ボックス オホーツク海および牟岐沖産等甲殻類剥製

企画展 企画展 門出のセレモニー ー婚礼・葬送の習俗ー

館蔵品紹介 江戸時代初期の蜂須賀分限帳ー阿波淡路分限録ー

レファレンス Q&A これは何の葉ですか?

●No. 44 (2001年9月16日発行)

Culture Club よみがえったあの日の記憶ー28年前に撮影ずみのフィルムから画像を取り出す試みー

情報ボックス 流れ寄る種の話

勝瑞城館跡国史跡指定記念特別陳列 勝瑞時代ー細川・三好氏と阿波ー

館蔵品紹介 県南地域に生息するアカメ

レファレンス Q&A 川原の石の名前を調べる方法を教えてください

●No. 45 (2001年12月1日発行)

Culture Club 阿波の昆虫研究家1ー高橋 尚孝ー

情報ボックス 徳島県立博物館の学校教育支援事業 国立博物館・美術館巡回展 信仰と美術

速報. 1 園瀬川で発見されたタコノアシとフジバカマ

速報. 2 前山1号墳の調査成果

●No. 46 (2002年3月25日発行)

Culture Club 香川県大内町水主神社の大般若経と浪花 勇次郎ー徳島県史学史の一断面ー

情報ボックス おまけになった動物たち

企画展 貝化石が語る海の記憶

速報 人形浄瑠璃芝居上演用に見事変身! 今山の農村舞台

レファレンス Q&A 百本足の百足はいるのでしょうか?

■その他

●博物館催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したB4判4つ折のリーフレット。14万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案

内を印刷したB4のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

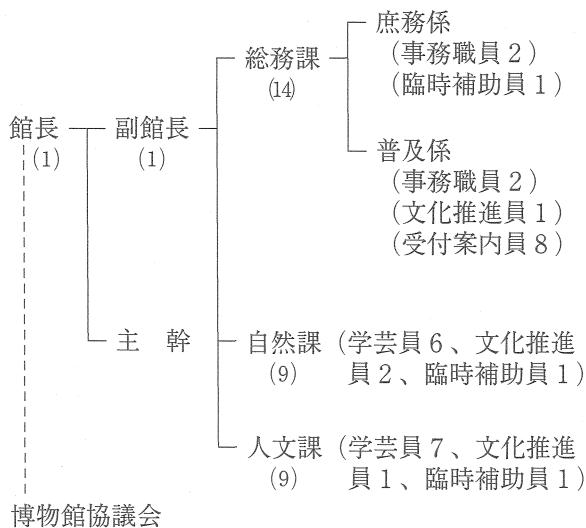
●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した印刷物。年度初めに県内各学校に送付している。

V 管 理 運 営

1. 組織・職員

(1) 組織図 (平成14年4月1日現在)



(2) 職員名簿 (平成14年4月1日現在)

館長 両角 芳郎
 副館長 本村 忠昭
 主幹 (総務課長兼務) 米益 麻夫

〈総務課〉
 総務課長 (庶務係長兼務) 米益 麻夫
 主事 亀井 美穂
 普及係長 上野 秋利
 主事 坂本 和裕
 文化推進員 鳥 さなえ
 臨時補助員 北川 美紀
 受付案内員 佐々木道子
 ♪ 山崎 光
 ♪ 加藤 陽子
 ♪ 荒井 美奈
 ♪ 行譜ゆかり
 ♪ 小川まどか
 ♪ 高本 順子
 ♪ 立川 百香

〈自然課〉
 自然課長 大原 賢二 (動物)

主任学芸員 佐藤 陽一 (動物)
 ♪ 小川 誠 (植物)
 ♪ 田邊 力 (動物)
 ♪ 中尾 賢一 (地学)
 学芸員 茨木 靖 (植物)
 文化推進員 坪内 千恵
 ♪ 騎馬 貴子
 臨時補助員 柳本 和美

〈人文課〉
 人文課長 山川 浩實 (歴史)
 専門学芸員 高島 芳弘 (考古)
 主任学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)
 ♪ 長谷川賢二 (歴史)
 ♪ 魚島 純一 (考古・保存科学)
 学芸員 庄武 憲子 (民俗)
 ♪ 磯本 宏紀 (民俗)
 文化推進員 松本 絵梨
 臨時補助員 赤澤佐知子

(3) 人事異動 (平成14年4月1日付、カッコ内は前職)

退職：天羽 利夫 (平成14.3.31退職)
 転出：喜田 正浩・教育研修センター次長へ
 山口 英二・神山東中学校教頭へ
 転入：本村 忠昭 (徳島学院次長)
 上野 秋利 (平島小学校教諭)
 昇格：両角 芳郎・館長 (副館長)
 新採：磯本 宏紀・学芸員

(4) 平成13年度非常勤・臨時職員

●文化推進員 (非常勤特別職)
 小林 千恵 (平成10.5.1～13.4.30)
 原 多賀子 (平成11.4.1～14.3.31)
 鳥 さなえ (平成12.4.1～)
 坪内 千恵 (平成13.1.1～)
 中谷 敬子 (平成13.5.1～13.12.31)
 騎馬 貴子 (平成14.1.9～)

●臨時補助員
 近藤 早苗 (平成13.4.1～14.3.31)
 山内 裕子 (平成13.4.4～14.3.31)
 赤岩 愛子 (平成13.4.1～14.3.31)
 遠藤 仁美 (平成13.4.1～14.3.31)

●平成13年度博物館費（2月現計予算額）

（単位：千円）

科目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報酬	26,507	26,507				
賃金	11,616	11,616				
報償費	1,050		300	290	220	240
旅費	7,642	861	1,760	3,989	852	180
需用費	30,702	3,883	16,764	4,063	4,189	1,803
役務費	10,998	1,914	5,498	639	2,182	765
委託料	5,267		4,131		1,136	
借損	663	157		406		100
備品費	43,967	1,618	773	1,400	*40,176	
負担金	10,099	81	9,953	65		
計	148,511	46,637	39,179	10,852	48,755	3,088

註）*のうちには、資料購入費34,726千円を含む。

岩佐 春香（平成13. 5. 1～14. 3. 31）

●受付案内員（非常勤特別職）

佐々木千恵（平成10.10. 1～13. 8. 31）

佐々木道子（平成12. 2. 1～ ）

柳沢希世子（平成12. 4. 1～14. 1. 31）

吉田 友子（平成12. 4. 1～14. 1. 31）

山崎 光（平成12. 4. 19～ ）

加藤 陽子（平成13. 4. 1～ ）

荒井 美奈（平成13. 4. 1～ ）

鳥庭 康代（平成13. 4. 1～13. 4. 30）

行譜ゆかり（平成13. 5. 9～ ）

小川まどか（平成13. 9. 1～ ）

高本 順子（平成14. 2. 1～ ）

立川 百香（平成14. 2. 15～ ）

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成14年3月31日現在）

区分	氏名	役職等
学校教育	木下 覺	県小学校教育研究会理科部会長 大津西小学校校長
	庄野 宏文	県中学校教育研究会社会科部会長 大麻中学校校長
	湯浅 利久	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 富岡西高等学校教頭
社会教育	樫原 正義	徳島市立徳島城博物館副館長
	藤井 隆司	日和佐うみがめ博物館館長
	大石 雅章 （副会長）	鳴門教育大学助教授
学識経験	中村 昌宏 （会長）	徳島文理大学教授
	佐野 英子	徳島新聞社事業局事業部副部長
	友滝 洋子	徳島県女性海外派遣交流会顧問
	田中 育代	車いすテニスサークル「フィフティー・ラブ」車椅子の選手

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を上表に示す。

3. 博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

13年度は協議会を1回開催した。

●13年度博物館協議会

日時：平成13年8月1日（水） 13：30～16：00

会場：博物館講座室

- 議事 ①平成12年度決算及び事業報告について
 ②平成13年度予算及び事業計画について
 ③「県民に親しまれる博物館」のあり方について
 ④「博学連携」について

⑤その他

4. 各種委員・非常勤講師等の受諾

平成13年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

天羽利夫

徳島市立考古資料館協議会委員
(平成11. 7. 1～13. 6. 30)

鳴門教育大学非常勤講師
(平成13. 4. 1～14. 3. 31)

喜田正浩

徳島市立德島城博物館協議会委員
(平成13. 6. 1～14. 3. 31)

両角芳郎

徳島大学総合科学部非常勤講師
(平成13. 4. 1～14. 3. 31)

大原賢二

とくしまビオトープ・プラン検討委員会委員
(平成13. 6. 12～14. 3. 31)

「(仮称)千年の森科学館」展示基本計画策定作業部会委員 (平成13. 7. 11～14. 3. 31)

佐藤陽一

とくしま川づくり委員会委員
(平成12. 12. 15～13. 12. 14)
(平成13. 12. 15～15. 12. 14)

とくしまビオトープ・プラン検討委員会委員
(平成13. 6. 12～14. 3. 31)

徳島県田園環境検討委員会委員
(平成13年12月～15. 12月)

小川 誠

絶滅危惧植物専門第一委員会委員
(13. 7. 1～14. 12. 31)

徳島県田園環境検討委員会委員
(平成13年12月～15. 12月)

高島芳弘

徳島市立考古資料館資料展示検討委員
(平成12. 2. 1～14. 3. 31)

長谷川賢二

岡山大学文学部非常勤講師
(平成13. 4. 1～14. 3. 31)

徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員
(平成13. 4. 1～14. 3. 31)

徳島県同和地区民俗文化史調査委員
(平成13. 6. 5～14. 3. 31)

「(仮称)千年の森科学館」展示基本計画策定作業

部会委員 (平成13. 7. 11～14. 3. 31)

徳島県歴史の道整備活用総合計画策定委員
(平成13. 9. 21～16. 3. 31)

魚島純一

四国大学非常勤講師 (平成13. 4. 1～13. 9. 30)

庄武憲子

神山町史編集委員会執筆委員
(平成10. 7. 1～15. 3. 31)

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃資料館協議会委員
(平成13. 4. 1～15. 3. 31)

5. コンピュータシステム

平成11年度にCOMET (徳島県文化・学習情報システム) のコンピュータシステム更改が行われ、一般への情報提供システム及び業務システムに係わる部分に変更された。特に情報提供システムはインターネットベースに変更された。

(1) システム構成

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。

業務用システムでは、研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネットをつなぎ、2台のファイルサーバを中心としたMacintoshによるLANを構築している。職員1人につき1台のパソコンが支給されている。業務用サーバのデータは、21世紀館に常駐するSEによって毎日バックアップがとられている。

情報提供用システムでは、館内ではLANにより、館外へはインターネットによる情報提供を行っている。従来のCOMETによる資料データベースの提供は、Microsoft Windows NT Serverによって運用され、21世紀館がシステムの管理を行っている。博物館の催し物や各種ニュースなどは、Macintoshを使ったWWWサーバで博物館のホームページとして公開され、このサーバに関しては博物館が管理を行っている。

(2) システムの活用

●資料管理

博物館では収蔵資料をデータベースに登録している。資料データベース作成は、各分野ごとに担当学芸員が様々な目的に応じた柔軟なデータの加工ができるよう、市販ソフトであるファイルメーカー Pro を用いて行っている。

データベースを使って、資料ラベルや資料目録の作

成、資料受入れ・貸出し管理、各種調査や問い合わせのデータ作成、情報提供用データの作成等の作業を行っている。

●各種データベースの構築

資料管理以外にも次のような各種のデータベースを構築し、共有している。

- ・図書データベース
- ・画像データベース
- ・文献データベース
- ・発送先住所データベース

●普及活動及び広報活動への活用

各種の広報用印刷物はパソコンを使って編集し、データを印刷業者に渡したり、レーザープリンタで出力したものを原稿として用いている。12年度も、催し物データベースを構築し、それを利用して催し物案内文の作成、行事記録の作成を行うようにした。さらにデータベースと電子メールソフトを連携して、電子メールでの催し物案内サービスを行っている（13年3月末現在の登録者約299名）。

●COMET を通じての情報提供

文化の森では、COMET を通じて来館者や各家庭にさまざまな情報提供を行っている。博物館でも収蔵資料データベースや図書データベースを公開しており、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

●ホームページによる情報提供

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年の7月から、次期 COMET システムの実験という性格も兼ねて、新ホームページの運用を始めた。その成果をもとに、12年度は新システムの運用に伴い博物館のホームページも実運用を始めた。ホームページの主な項目は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
- ・展示案内（企画展、常設展）
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動（データベース）
- ・学校等への利用案内
- ・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
- ・友の会、博物館協議会
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー（子供向けメニュー、映像コーナーなど）

●インターネットの活用

電子メールやホームページを職員が利用できるようになり、各種問い合わせや連絡、情報の収集に活用している。メーリングリストを利用し、博物館や研究者間の情報交換もさかんに行われている。

●展示活動への活用

企画展の展示パネルの多くやラベルは、パソコンで作成し、レーザープリンタやカラープリンタで印刷したものを使うようになった。

●博物館業務管理への活用

日常の博物館業務管理にもシステムを活用しており、定型作業や集計作業の効率化を図っている。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在90館（園）が加盟している。四国地区の会長（支部長）を担当する館が2年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっており、平成12～13年度の2年間は当館が幹事をつとめた。

平成13年度の役員会および総会は次のとおり徳島市で開催された。

●13年度役員会・総会

日時：7月10日（火） 10：30～17：00

会場：眉山会館

議事：平成12年度事業報告及び決算報告について
新規加盟施設の紹介及び会費決定について
平成13年度事業計画案及び予算案について
アンケート結果について

- ・四国地区博物館協議会アンケート
- ・芸予地震による博物館施設の被害状況アンケート

講演

演題：地震災害と博物館－その時博物館には何ができるか？－

講師：魚島純一氏（徳島県立博物館主任学芸員）

●研修視察 7月11日（水） 8：30～12：00

視察先：恰美術館、徳島県立鳥居記念博物館

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、9年度11館、11

年度に2館、12年度に3館、13年度に3館が加盟し、全部で50館（平成14年3月末現在）になっている。なお、当館に事務局が置かれている。

●役員（平成14年3月末現在）

会長	徳島県立博物館長	天羽 利夫
副会長	大塚国際美術館理事	田中 秋篠
副会長	とくしま動物園長	本田 武
理事	相生森林美術館長	仁木 正
理事	徳島市立徳島城博物館副館長	樫原 正義
理事	徳島県立近代美術館長	河江 薫
理事	石の博物館長	岩崎 正夫
理事	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館長	笹田 博之
監事	海南町立博物館長	岡田 一郎
監事	鳴門市ドイツ館長	田村 一郎

●13年度新規加盟館（3館）

東福寺美術館、徳島県子ども科学館、Wa ンダーランド

●13年度事業

- ①加盟館園の組織・職員と展示概要、主な収蔵資料リストを作成した。
- ②徳島県博物館協議会ニュースを2回発行した。
- ③役員会の開催
 - ・日時：5月30日（水） 13：00～14：00
 - 場所：徳島県立博物館応接室
 - 議事：総会について
 - ・日時：11月27日（火） 13：30～15：30
 - 場所：徳島県立博物館応接室
 - 議事：先進地の博物館施設の調査、加盟館相互協力による共同事業の検討部会、研修会、新規加盟館とマップ改訂版の作成について
- ④総会の開催
 - 日時：5月30日（水） 14：30～16：00
 - 場所：徳島県立博物館講座室
 - 議事：12年度事業報告並びに決算報告について
監査報告について
13年度役員について
13年度事業計画並びに予算案について
その他—徳島博物館マップの改訂について
 - 講演：講師 魚島純一氏（徳島県立博物館主任学芸員）
 - 演題 「ロサンゼルス博物館事情」
- ⑤研修会の開催
 - 日時：2月8日（金）
 - 場所：徳島県子ども科学館
 - 内容：講演「施設概要と事業運営」
徳島県子ども科学館・あすたむらんど徳島見学

⑥先進地の博物館施設の調査

11年度の県外旅行者へのPR活動に代わる事業として、12年度より県外の博物館を視察することになり、2年目の今年は、10月26日に香川県内の博物館（四国民家博物館、香川県歴史博物館）を訪問した。参加者は15名。

⑦とくしまミュージアムスタンプラリーの実施

9年度に作成した「徳島博物館マップ」の有効利用とともに、入館者の増加をはかるなど、博物館活動の振興を図るため、11年度から3年間の期限で「とくしまミュージアムスタンプラリー」を実施した。

3年目の13年度は11組19名の完走者（スタンプラリーに参加する37館すべての見学者）が出た。

⑧協議会加盟館実務者による共同事業検討会の開催

日時：11月21日（水） 14：00～16：00

場所：徳島県立博物館講座室

内容：共同企画展・巡回展・共同講座について
とくしまミュージアムスタンプラリーの今後の取り扱いについて

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、32機関・団体が加入しており、事務局は大阪人権博物館、水平社博物館、福山市人権平和資料館、福岡県人権啓発情報センター、柳原銀行記念資料館で組織されている。

当館は発足時から加入しており、毎年1回開催される総会に職員を派遣しているほか、加入機関との個別的な協力も行っている。

13年度総会は、7月15～16日、福岡県人権啓発情報センター（福岡県春日市）を会場として行われた。14年度総会を徳島県立博物館で開催することなどが決定された。

(4) 環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会

文部科学省委嘱の「科学系博物館活用ネットワーク推進事業」を中国・四国地区で推進するため、大阪市立自然史博物館が拠点となり、7館が加盟して本協議会が設立された。平成12・13年度の2年継続で、コンピュータを活用した各館標本データの相互参照システムの開発、市民参加による野外活動等の推進、学校教育現場とも連携した学習支援等に関する各種の事業を

行った。

●協議会への加盟自然史系館園

大阪市立自然史博物館（事務局）
笠岡市立カブトガニ博物館
倉敷市立自然史博物館
高知県立牧野植物園
島根県立三瓶自然館
徳島県立博物館
兵庫県立人と自然の博物館

●13年度の当館担当事業

①学校貸出し用実物標本セットなどの開発

メダカおよびカダヤシ拡大模型の製作、ツルグレン装置（土壌動物抽出装置）の製作を行ったほか、昆虫や化石の貸出し用標本セットを作成した。これらの標本セットについてはA4判の解説シートを印刷し昨年度に印刷したものと合わせてファイルし、学校に配布した。

また、貸出し用化石標本セットを活用し、北灘中学校（9月14日）および八万中学校（1月16・17日）において博学連携モデル授業を行った。

②環瀬戸内地域博物館横断検索システム

ネットワーク推進協議会加盟の各博物館が所有・公開している様々な情報を集約し、利用者が知りたいキーワードで一括して検索できるシステムの構築と検索辞書の入力作業を行った。

●講演とフェスティバル「瀬戸内の自然—自然史博物館で学ぶあなたの町の自然」への出展

本協議会の事業として広島市で開催された移動博物館フェスティバルに当館も出展し、雑草を使った紙づくり、植物のしおりづくり、ウツギの笛づくりの展示と実演を行った。

10月29日 摂南大学名誉教授上島有氏、法政大学教授中野栄夫氏
11月3日 武漢大学歴史系副教授 彭敦文氏ほか1名
11月7日 南国市教育委員会（講座受講生）一行
11月13日 財団法人三井文庫学芸員 清水実氏
11月15日 香川県文化財保護協会大川支部一行51名
11月21日 高瀬町文化財保護協会一行 38名
11月22日 大阪市立大学助教授 仁木宏氏ほか
11月24日 日吉町立日吉解放センター一行30名
瀬戸内海歴史民俗資料館友の会一行40名
11月25日 歴史学と博物館のあり方を考える会一行8名
11月30日 新潟市歴史文化課学芸員 長谷川伸氏
12月1日 史料管理学研修会同窓会一行10名
1月26日 武蔵野美術大学教授 岡部あおみ氏
2月7日 山城地域隣保館連絡協議会一行25名
2月15日 奈良国立博物館仏教美術資料研究センター 井口喜晴氏ほか3名
2月18日 奈良国立博物館仏教美術資料研究センター 長井口喜晴氏
2月28日 宮内庁正倉院事務所保存課整理室長 尾形充彦氏ほか2名
3月2日 国立歴史民俗博物館展示課教育事業係長 椿阪信弥氏
3月20日 奈良県立橿原考古学研究所資料室 高木清生氏ほか2名
3月22日 奈良国立博物館仏教美術資料研究センター 井口喜晴氏ほか3名
3月26日 福岡市博物館管理係長 笠 俊紀氏、学芸係長 福岡裕爾氏
3月30日 部落解放同盟京都市協青年部一行21名

7. 視察等博物館関係来訪者

5月5日 ペルー国立博物館館長エンリケ・ゴンサーレス氏ほか2名（～9日まで滞在）
7月3日 株式会社学習研究社西谷隆行氏ほか5名
7月11日 高知県立歴史民俗資料館学芸員 梅野光興氏
7月25日 愛媛県歴史文化博物館学芸員 安永純子氏
8月3日 奈良国立博物館仏教美術資料研究センター 井口喜晴氏ほか6名
8月4日 部落解放同盟中央執行委員 辻本正教氏
10月23日 瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員 松岡宏一氏
10月24日 文化庁主任文化財調査官 本中眞氏

VI 観覧者統計

●平成13年度常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館 日数	有料観覧者											無料観覧者											観覧者 総数			
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料 観覧者 計	学 校 教 育								第2,4 土無料入	その他		無料 観覧者 計		
		一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学生		幼稚園・保育園 人数	小 学 校 校 人数	中 学 校 校 人数	高 校 校 人数	計									
								高齢者	障害者	計								校 人数	校 人数								
4	26	590	35	255	1	0	36	67	5	72	0	0	989	1	55	2	318	3	203	2	241	8	817	218	1,683	2,718	3,707
5	27	576	25	172	84	0	0	156	4	160	0	0	1,017	4	162	14	834	5	571	2	74	25	1,641	236	3,040	4,917	5,934
6	26	620	34	197	115	0	0	104	10	114	1	1	1,082	1	12	4	237	2	265	1	6	8	520	284	283	1,087	2,169
7	26	634	38	331	12	0	3	60	12	72	0	3	1,093	1	18	1	29	1	16	0	0	3	63	110	656	829	1,922
8	27	1,385	75	936	125	1	10	102	7	109	2	2	2,645	1	41	1	48	0	0	1	120	3	209	0	734	943	3,588
9	26	463	47	150	55	0	0	65	22	87	0	0	802	1	202	0	0	0	0	0	0	1	202	234	1,474	1,910	2,712
10	26	414	25	80	20	1	0	130	37	167	0	0	707	2	80	8	323	2	349	0	0	12	752	244	538	1,534	2,241
11	26	427	22	114	131	0	1	182	9	191	0	0	886	2	36	9	811	0	0	0	0	11	847	195	975	2,017	2,903
12	23	300	17	76	9	0	3	43	6	49	0	1	455	1	13	1	11	0	0	0	0	2	24	157	469	650	1,105
1	23	414	33	123	6	0	1	42	2	44	0	0	621	2	176	1	119	0	0	0	0	3	295	169	704	1,168	1,789
2	24	507	19	135	6	1	0	90	7	97	0	1	766	0	0	1	19	1	5	0	0	2	24	225	821	1,070	1,836
3	27	620	48	241	44	0	2	176	11	187	0	0	1,142	4	125	16	22	0	0	0	0	5	147	203	640	990	2,132
計	307	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	83	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038

●博物館常設展観覧者数累計(平成2~13年度)

(単位：人)

年 度	開館 日数	有料観覧者											無料観覧者											観覧者 総数			
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料 観覧者 計	学 校 教 育								第2,4 土無料入	その他		無料 観覧者 計		
		一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	大 人			高校・ 大学生	小・中 学生		幼稚園・保育園 人数	小 学 校 校 人数	中 学 校 校 人数	高 校 校 人数	計									
								高齢者	障害者	計								校 人数	校 人数								
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722		55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277	
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282		202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117	
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861		114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133	
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132
13	307	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	83	5,541	2,275	12,017	19,833	32,038
計	3,455	266,421	21,720	98,681	25,647	1,696	4,874	39,939	3,408	43,347	160	203	462,749	218	11,524	1,069	99,392	221	32,353	104	13,581	1,597	156,850	15,952	104,766	277,568	740,317

●平成13年度企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者									有料観覧者計	無料観覧者	観覧者総数
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
第1回企画展「クントゥル・ワシ神殿の発掘」	H13.4.6 H13.5.6	27	3,326	267	520	38	0	179	880	1	5	5,216	821	6,037
第2回企画展「門出のセレモニー-婚礼・葬送の習俗」	H13.7.17 H13.8.26	36	889	65	89	55	0	0	230	1	0	1,329	489	1,818
第3回企画展「信仰と美術」	H14.2.9 H14.3.21	27	2,087	112	125	53	37	18	1,112	0	0	3,544	760	4,304
平成13年度小計		90	6,302	444	734	146	37	197	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159

●企画展観覧者数累計(平成3～13年度)

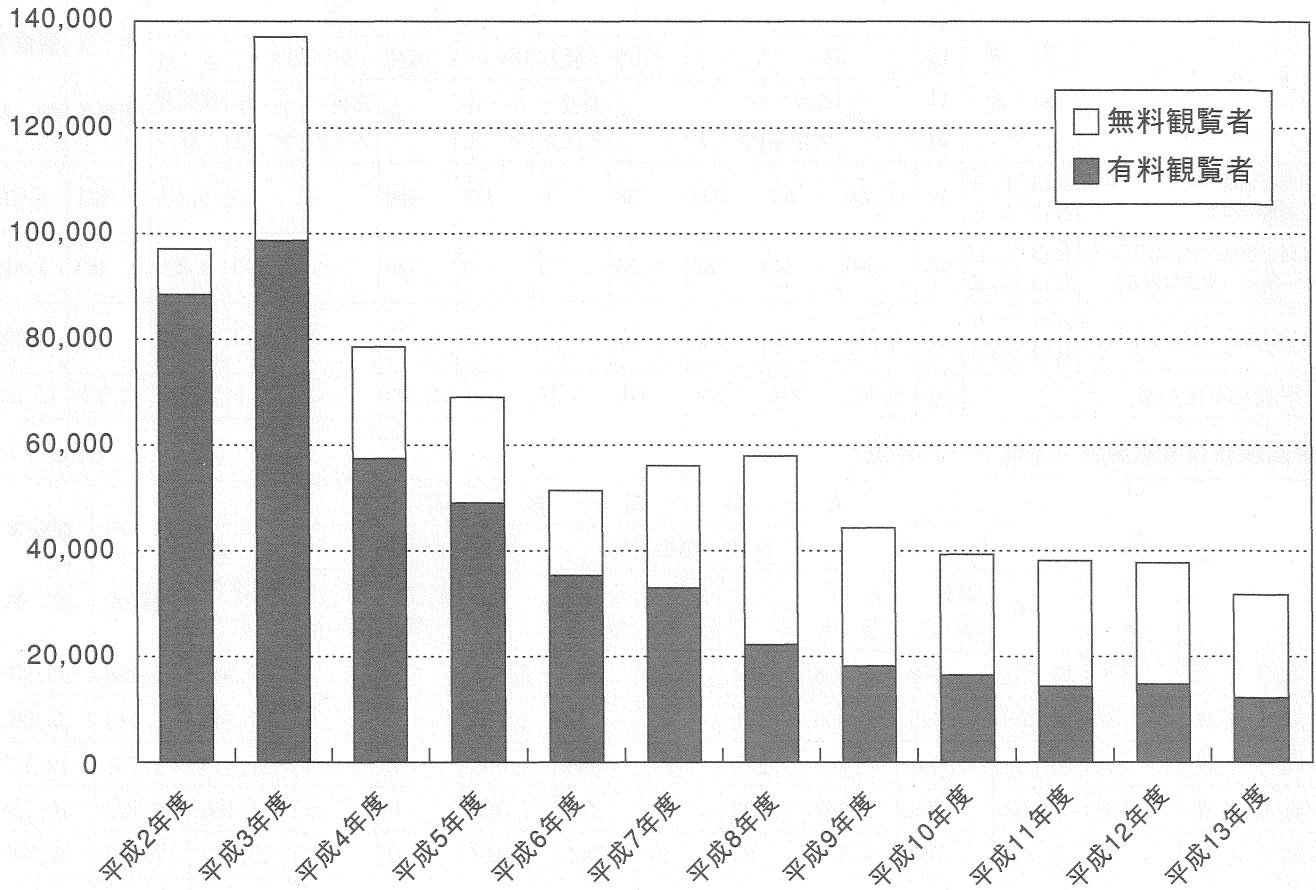
(単位：人)

年度	開催日数	有料観覧者									有料観覧者計	無料観覧者	観覧者総数
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	972	0	6	8,834	24,581	33,415
平成13年度	90	6,302	444	734	146	37	197	2,222	2	5	10,089	2,070	12,159
累計	1,150	89,644	7,328	32,509	1,878	290	6,922	14,969	61	51	153,652	67,809	221,461

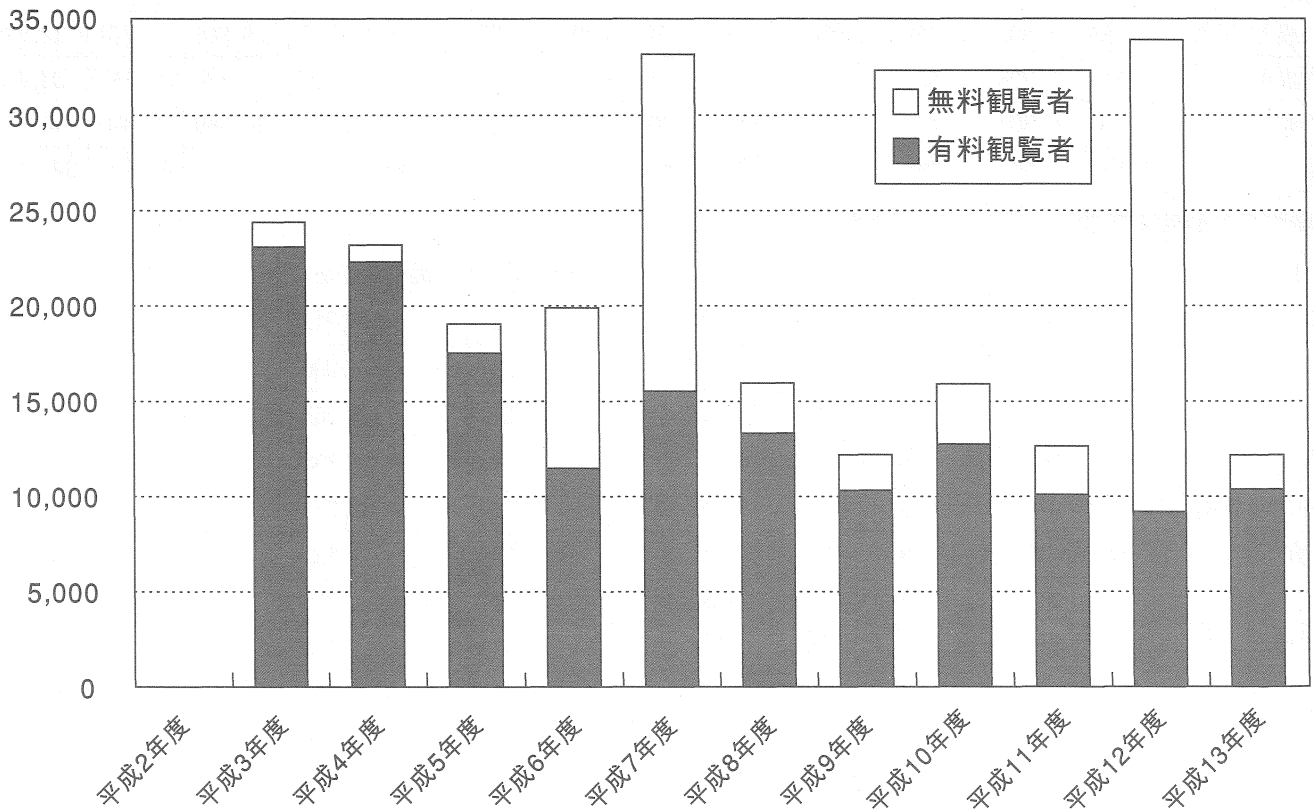
●特別陳列観覧者数累計(平成4～13年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平8.2.16～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11.7.17～8.29	38	22,372
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
写生大会作品展	平12.12.5～12.24	18	1,850
勝瑞時代-細川・三好氏と阿波-	平13.10.20～11.25	32	5,605
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
◇第2回	平12.12.4～12.9	6	847
累計		214	52,850

●常設展観覧者数（平成2～13年度）



●企画展観覧者数（平成2～13年度）



Ⅶ 施設の概要

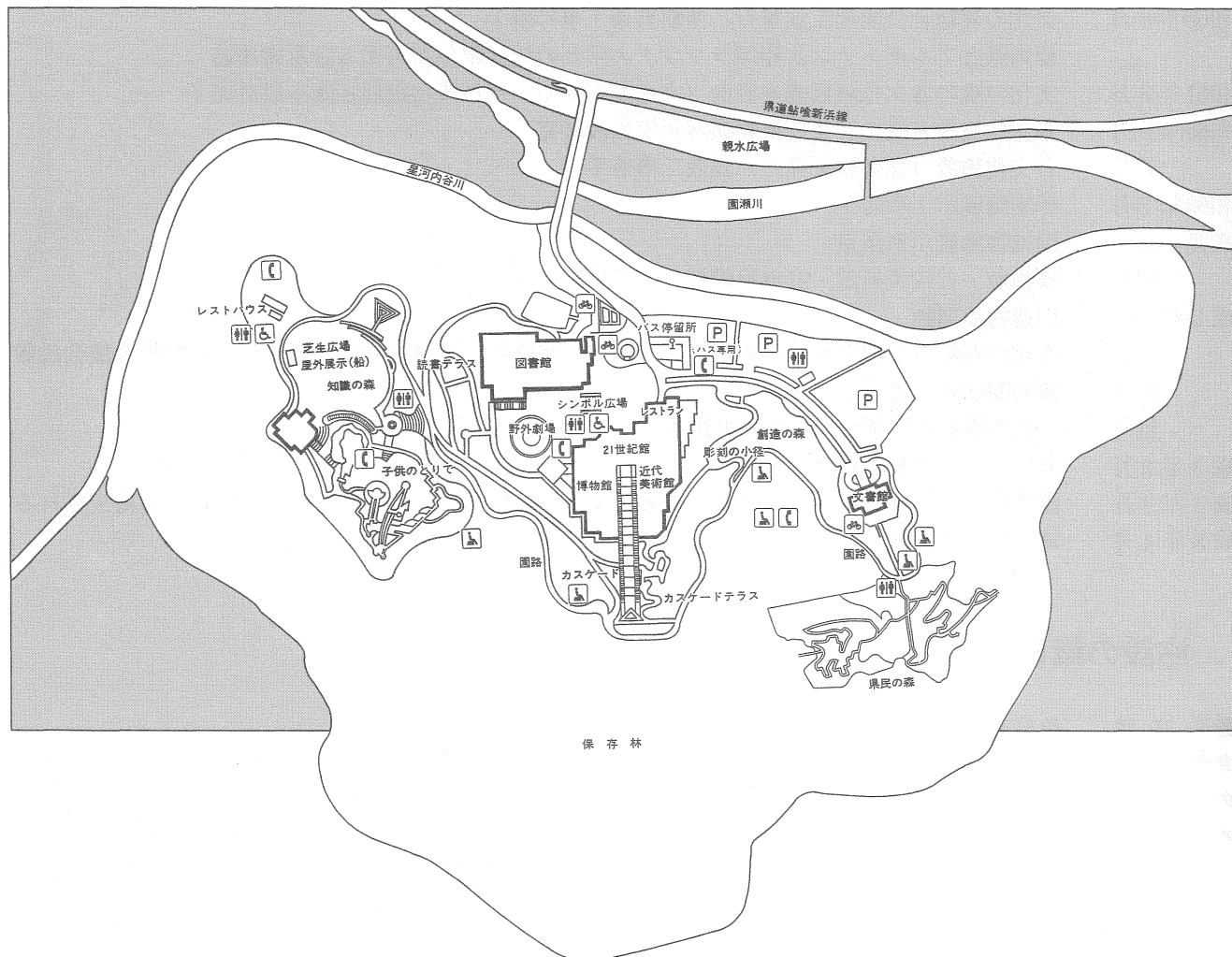
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	博物館が、日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く文教施設として指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363m²（3館棟）
- 延床面積 22,382m²（3館合計－積層部分を含めると23,814m²）
8,133m²（博物館占用スペース）

- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
 - 建築 —— 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
 - 電気 —— 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
 - 空調 —— 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
 - 管 —— 朝日工業社・大成設備 共同企業体
 - エレベータ —— (株)東芝
 - 家具 —— 富士ファニチア(株)
 - 移動展示ケース —— (株)三井
 - 展示 —— (株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
保存処理室 1	70
その他共用部分※	771
小計	2,043

2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラブラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

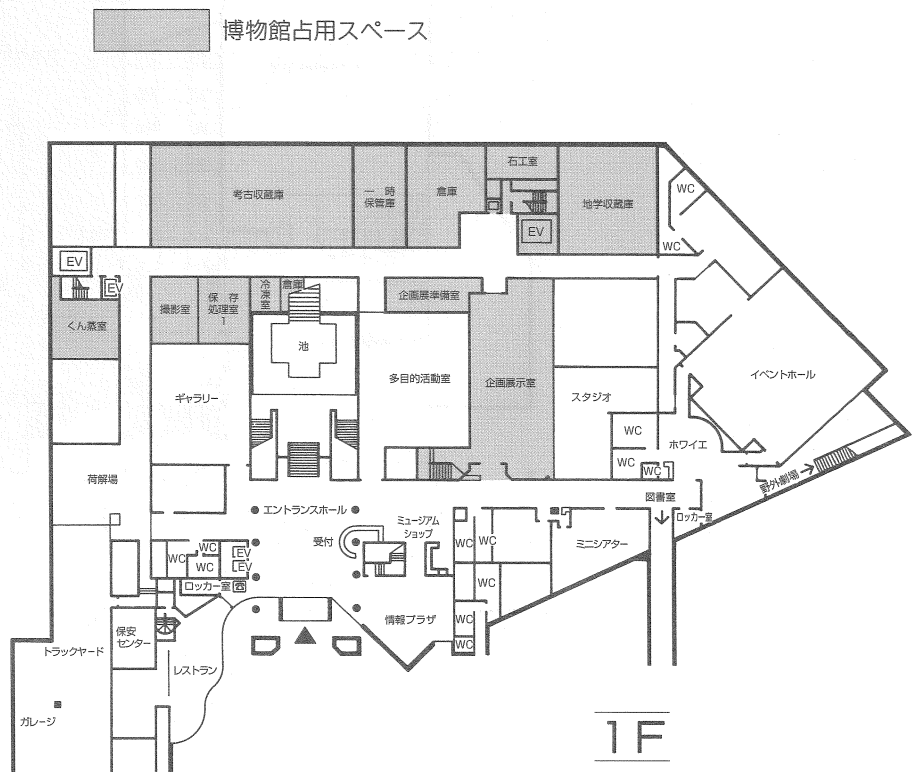
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

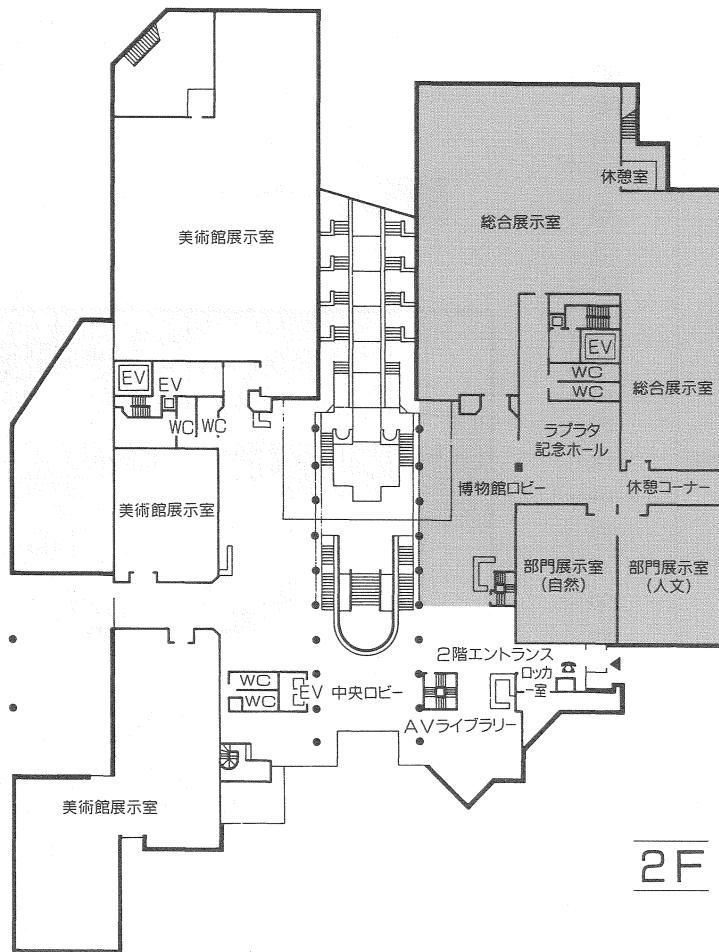
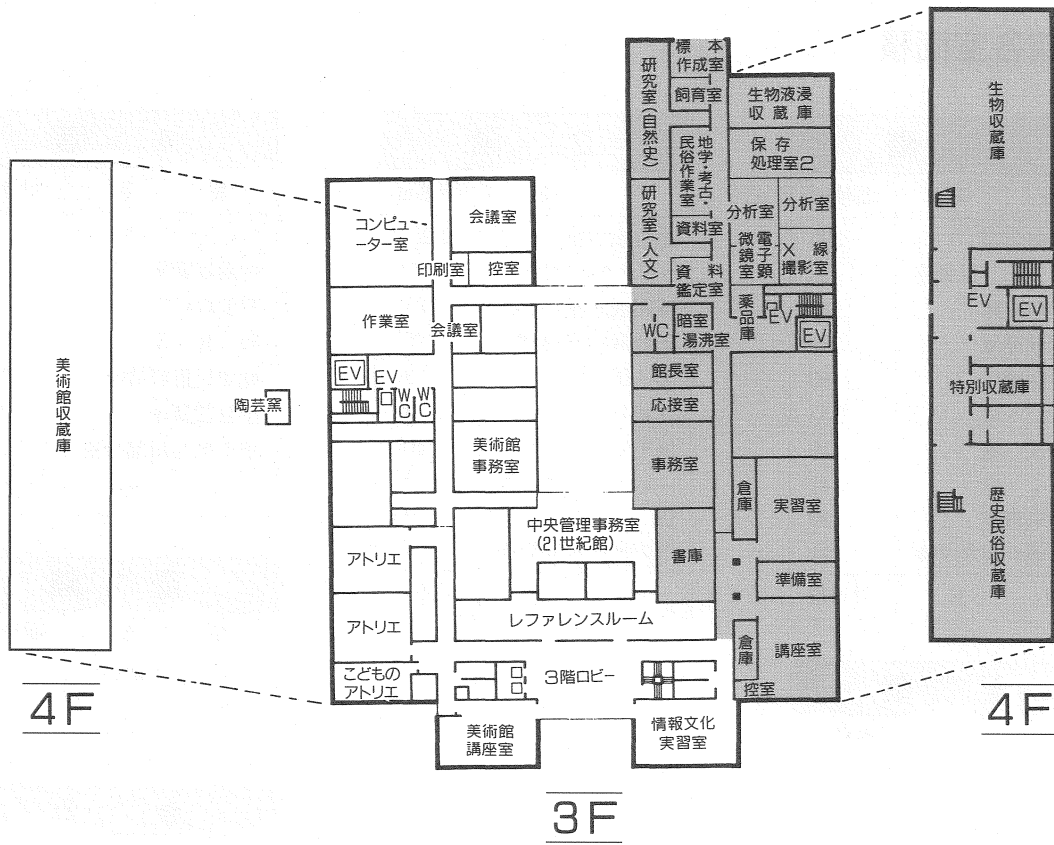
3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室 1	64
分析室 2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

屋 1 階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8.133㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。





VIII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 平成9年3月28日 徳島県条例第34号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(4館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 (省略)
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20人以上をいう。以下同じ。)	個 人	団 体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長(以下「館長」という。)は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成14年3月29日 徳島県教育委員会規則第8号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に総務課、自然課及び人文課を置き、総務課に庶務係及び普及係を置く。

2 前項の課及び係の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

(所長等の職務)

第32条 教育センター、情報処理教育センター、少年自然の家及び埋文総合センターの所長、文書館、21世紀館及び中央武道館の館長並びに県民運動場の場長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館

(教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、当該機関に属する次長又は副館長が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し特に命ぜられた事項を処理する。
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係 長	上司の命を受け、係の事務を処理する。
事 務 主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の各協議会等は省略)

●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制 定 平成2年11月3日

最近改正 平成14年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。)

第4条第3項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減免)

第2条 観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者(昭和57年1月6日付け社更第4号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。)の介護者(1名に限る。)、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)並びに精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者(1名に限る。)が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (3) 年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (4) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する祝日及び休日(1月1日を除く。以下「祝日」という。)に観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (5) 祝日に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。企画展観覧料の全額
- (6) 土曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (7) 日曜日(祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (8) 各学校の学則等に規定する学年始休業日、夏季休業日、冬季休業日及び学年末休業日(土曜日、日曜日及び祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の全額
- (9) その他徳島県立博物館長(以下「館長」という。)が特に必要と認めるとき。館長が必要と認める額

(観覧料の免除申請等)

第3条 前条第1号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書(様式第1号)を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の申請を適当と認めるときは、観覧料の免除を承認するものとする。

3 前条第2号又は第3号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保険福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第1号(省略)

●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第6条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

(手続)

第3条 資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第1号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

3 館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第3号）を提出させるものとする。

(許可基準等)

第4条 資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

- (1) 特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。
- (2) 特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。
- (3) 寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) その他、館長が不相当と認めるとき。

2 資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

- (1) 国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法に定める公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法に定める図書館
- (4) 学校教育法に定める学校
- (5) その他、館長が適当と認める者

(条件)

第5条 資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。
- (2) 係員の指示に従って資料を取り扱うこと。
- (3) 資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。
- (4) 特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

(損害賠償)

第6条 資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第1号～第3号（省略）

●徳島県立博物館資料寄託取扱要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第7条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

(手続)

第2条 徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料寄託申請書（様式第1号）を提出し、資料寄託許可証（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第3号）を交付するものとする。

3 寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

(許可基準)

第3条 館長は、資料の寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

(1) 国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料

(2) 博物館資料として展示等に活用できる資料

(3) 博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料

(4) その他、館長が特に必要と認める資料

(寄託期間等)

第4条 資料の寄託期間は、5年とする。

2 寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第2条による手続を行わなければならない。

3 寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

4 寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

5 館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第2条による手続を行うものとする。

(寄託資料の特別利用)

第5条 徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

2 第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

(経費等)

第6条 寄託資料の運搬等に要する費用については、寄託者が負担するものとする。

2 寄託資料の保管料については徴収しない。

3 寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

(管理)

第7条 寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第1号～第3号（省略）

徳島県立博物館年報 第11号 (平成13年度)

平成14年(2002)6月30日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール museum@staff.comet.go.jp

ホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/>

印 刷：(株)教育出版センター
